

阪出鹽務局

三津濱出張所之部

阪出鹽務局二津濱出張所ノ部

三津濱出張所管内ニ屬スル鹽田ハ左ノ七區域ニ分タル
一 御手濱 二 御手洗濱 三 中臺濱 四 馬磯濱 五 新濱 六 新川濱 七 森濱

就中新濱鹽田ハ製鹽業者最多ク釜屋數亦之ニ準スト雖モ其規模何レモ小ニシテ大ナルモ一町一二段ヲ超エス小ナルハ三段ニ足ラサル狀態ニシテ鹽田亦從テ不整頓ニ属シ且一方農業ヲ兼營セルヲ以テ採鹹及煎熬ニ關スル調査モ到底標準トナスニ足ラス

森、中臺、馬磯、新川、ノ四鹽田ハ僅カニ一釜屋ノミヲ有シ其組織、構造稍見ルニ足ルモノアレトモ或ハ距離遠隔シ或ハ交通不便ヲ感シ倒底精密ナル調査ヲ行フ能ハサルナリ

爾餘ノ二鹽田、管内ニ於ケル最優越ナルモノニシテ一製鹽家何レモ三町以上ノ地域ヲ有シ施設構造他ニ秀テ終年煎熬ノ煙ヲ斷ツコト稀ニ鹽質佳良ニシテ產額亦多量ナリ以テ標準鹽田トナスニ足ルヘシ然レトモ御手洗濱ハ遙カニ海ヲ隔テ、島中ニ設ケタルト鹽田亦一籌ヲ御手濱ニ輸スルトニヨリ管内ノ標準鹽田ハ之ヲ御手濱ト定メタリ

如上ノ理由ニヨリ調査ノ材料ハ主トシテ之ヲ御手濱ニ取リ其著シキ異點アルモノハ往々其他ノ鹽田ニ就テ調査シタル所ヲ挿入シ以テ参考ニ便スルコト、セリ

第一 章 鹽田ノ位置方位及附近ノ地勢、地形

御手濱鹽田ハ三津濱町ヲ距ルコト南ニ四町三津濱町ヨリ今出及吉田ニ通スル里道ノ西ニ位置ス一條ノ砂嘴南方遙カニ斗出シ一帶ノ山脈近ク北方ニ横ハリテ其間一大灣ヲ形成スルモノ之ヲ三津濱ノ港頭トス鹽田ハ實ニ之ニ聯絡セル砂濱ニ沿フテ築造セラレタルモノナリ故ニ風波穩カニ天然ニ堆積シタル砂堤ハ以テ堅固ナル防波堤トナリ鹽田ヲ擁護ス嵯峨タル石槌山脈ハ遠

ク東方ヲ限リテ太平洋岸陰鬱セル水蒸氣ヲ阻止シ支脈延ヒテ目睫ノ間ニ聳エルモノ悉ク鬱蒼タル松林ヲ以テ掩ハレ又以テ水氣吸收ノ大作用ヲ營ムヲ以テ乾燥セル空氣ハ常ニ此鹽田ヲ圍繞シ採鹹作業ニ尠ナカラサル便益ヲ與フ
鹽田ニ連ナレル北方ノ地ハ悉ク荒蕪ナル砂地ニシテ東方吉田街道ヲ隔テ、延長セル地域ハ砂礫ヨリ成立セル畑地ヲ以テ充タ
サレ南方ハ低下セル一帶ノ耕地ヲ控エ而モ池沼ノ瀦水ナク河川ノ奔流ヲ見ス是ヲ以テ毫微ノ淡水モ鹽田ニ浸潤スルノ憂ナク
海水ヲ稀薄ナラシムル虞ナシ况ニヤ潮水満干ノ差甚タシク水ノ交換作用大ナルヲヤ本鹽田ノ鹹度秀出セル一因亦是ニ存ス
鹽田ハ東西ニ短ク南北ニ長シ東南北ノ三面一ノ障礙物ナク僅カニ西方土堤上ニ種々ノ建築物ヲ設クルノミ故ニ通風常ニ斷工
スシテ鹹砂ノ乾燥及水分ノ蒸發ヲ促進スルノ利決シテ尠少ナラサルナリ

第一 章 鹽業ノ沿革

創設、今ヲ距ルコト百二十餘年前天明八年五月松山藩主久松候藩用ノ目的ヲ以テ和氣郡(今ノ温泉郡)古三津村及山西村ノ地ヲトシ鹽田ヲ開始シタリ御手濱ノ名ハ蓋シ此レヨリ起リシナラン舊記ノ徵スヘキモノナク考證逸トシテ其精確ヲ知リ難シト雖モ鹽田所在ヲ小松原ト呼ヒ且附近ニ於テ點々巨松ノ朽株ヲ認ムルト古老ノ口碑ニ藩政時代ニ於テ今津街道ニ強盜追剝ノ出沒ハ小松原ヲ首トシタリト傳フルニ徵スレハ鬱然タル松林ヲ伐除シテ鹽田トナシタルモノゝ如シ

管理、鹽田ニ關スル全般ノ管理ハ三津濱元締(役)ニテ取扱ヒ明治ノ初年ニ及ヘリ現今鹽業者ノ住宅ハ實ニ其事務所ニシテ玄關ノ跡尚存シ且大衝立十數年前迄存在セシト云フ鹽田ノ東方ニハ八軒家ト稱スル所アリ往時御茶屋ヲ茲ニ設ケ藩主時々來ツテ鹽業ヲ視察セシト云ヘハ其鹽業ニ重キヲ置キタルヲ推知スルニ難カラス殊ニ現今ニ至ルモ古三津村產土神ノ祭典ニ際シテハ神輿ノ宮ヲ出ルヤ否ヤ第一着ニ此鹽田ニ來リ諸般ノ祭式ヲ終テ而シテ後他ニ神行スルノ風習アリ其古實明カラサレトモ思フニ鹽田加護ニ關係アルモノナラン是ヲ以テ鹽田ニ關係アルモノゝ如シ

權力亦甚大ニシテ御手濱御用ノ提灯ヲ用ユルトキハ濱子ノ三津濱町ニ私用ヲ辨スルニモ非常ノ威力ヲ有セシト云フ

鹽ノ賣買、藩用ヲ辨シテ餘リアレハ是ヲ一般民間ニ賣下ケタリ其法徒士ナトノ卑職者刎錆ヲ以テ鹽ヲ桶ニ掬込ミ鹽買受人ニ於テ桶數ヲ算シ代金ヲ納メテ持歸ルモノニシテ賣買ヲ終レハ掃除萬端買受人ニ於テ之ヲ行フノ定メナリシト云フ桶ノ容量ハ現今ト異ナラス
保護、松山藩ノ領内ニハ一切他領ヨリ鹽ヲ輸入セシメス以テ鹽業者ノ保護ヲナセリ故ニ鹽業從テ發達セルノ事實アルモ此禁ノ解ケシ後幾許カ衰頽ノ色ヲ呈セリ當時ニ於テ若シ製鹽非常ニ減少スル際特ニ他ヨリ鹽ヲ輸入スルモ鹽積船ハ決シテ三津濱ニ泊セスシテ堀江(三津濱町ヲ距ルコト東北約一里ノ海濱)ニ繫留セシメタリ是亦密輸入防遏ノ手段ニシテ鹽業保護ノ一端タリシモノ、如シ

第三章 製鹽方法

甲 鹹水採收

一 鹹田ノ種類及面積
鹽田ハ入濱法ヲ執リ普通中汐若クハ中干潮ナレハ潮水誘導ニ差支ヘヲ生スルコトナシ
本管下ニ於テハ一戸前若クハ一軒前ニ比スヘキ反別ヲ有スルモノナク本鹽田ノ如キモ二地場ヲ所有シテ製鹽スルモノナレ
トモ其一方ナル北濱ニ就キ測量シタル面積ハ左ノ如シ

一町七段七畝十歩二〇五
更ニ之ヲ内譯スレハ

一町六段九畝十九歩二三五

鹽田地盤
溝渠

七畝二十歩九七

ヲ算ス而シテ

一段八畝十四步

鹽田ノ西方土堤上ニ位置シ其内ニ

七十二坪

鹹水溜

二十五坪

釜屋

三十三坪二五

貯鹽庫

ト住宅トヲ建設ス

宅地ノ西方一帶ハ直ニ土堤ニ連リテ海水ニ接ス土堤ノ内部鹽田トノ間ハ所々畠地ヲ造レリ(圖面參照)

二 堤防ノ面積　堤防トハ鹽田ノ東北南ノ三部ヲ圍繞セル汚水排除ノ大溝渠ト鹽田地盤周圍ノ汐廻リ溝渠トノ境界ヲナセルモノヲ指シテ宅地背面ノ土堤ヲ含マス是レ本鹽田ニ於ケル海水ト鹽田トノ隔壁ハ自然ノ土堤ニヨリテ成立シ興居島鹽田ノ如ク人工的ニ築造シタルモノニアラス且土堤ハ即チ宅地畠地其他ヲ含有スレハナリ

八畝十七步九七

堤塘總面積

更ニ詳記スレハ

東部堤塘　長九十七間一尺二寸　巾一間六寸

南部堤塘

長五十六間三尺

巾一間一尺二寸

北部堤塘

長五十五間三尺

巾一間三尺

其高サハ三尺内外ナリ其築造材料ハ方一尺内外長一尺五六寸ノ花崗岩ヲ用ヒテ甃シ其上ニ土ヲ掩ヒタルモノナリ
海水ト隔壁セル堤塘ハ本鹽田ニ於テハ前述セル如ク自然ノ土堤ナレハ記述スルノ要ヲ見スト雖モ興居島鹽田ニ於テハ一尺以上一尺五六寸ノ面ト長二尺ニ達スルノ花崗岩ヲ以テ築造シ高三間巾六尺ニ及フ以テ人道ノ用ヲナシ又ハ海水ノ浸入ヲ防
クヘシ

三 鹽田内溝渠ノ面積 溝渠ノ長サハ全通セルモノハ五十四間一尺二寸乃至五十五間ニシテ全通セサルモノハ五十間ヨリ

五十一間一尺八寸ニ至ル幅ハ何レモ一尺八寸ニシテ深サハ一尺一寸五分乃至一尺二寸トス但シ汐廻リ即チ四周ヲ圍メル溝渠ハ幅三尺三寸ヲ算スルモノアリ其總面積ハ七畝二十歩九七ニシテ汚水排除溝即堤塘外ニアルモノ、面積ハ左ノ如シ

東部ニアルモノ 長九十七間一尺三寸二分

巾五尺四寸

北部ニアルモノ 長五十六間

巾七尺二寸

面積五畝四步六八トス而シテ南部ハ堤塘ニヨリ南濱ト區別シ溝渠之ニ連續スルヲ以テ算出スルコト能ハス各溝渠間ノ距離ハ七間三尺ヨリ七間四尺二寸ニ至リ七間三尺六寸ヲ普通トス又北山崎鹽田ニ就テ調査シタルニ長五十四間乃至五十五間溝渠間ノ距離七間一二尺ノ間ニアリ故ニ本管下ニ於テハ七間半内外ノ距離ヲ保ツト見テ大差ナシ

四 撒砂(鹹砂)浸出裝置沼井又ハ臺等ノ構造、面積、個數、大小、高低、配置施設、浸出裝置ハ總テ沼井ニ依ルモノニシテ基底ヲ粘土ニテ作リ其上ニ縦溝一條ト斜溝八九條ヲ走ラシメ鹹水ノ流通ニ便ス其四周ハ厚サ四五寸深サ四寸許リノ粘土ニテ圍ミ以テ一ノ粘土槽トナス粘土槽ノ上ニハ小サキ圓竹ヲ駢列シ其上ニ小麥藁製ノ蓆ヲ掩フ粘土槽ノ周壁上ニハ更ニ高サ七八寸ノ板ヲ繼合セシ四周ヲ圍ミ以テ撒砂及潮水ノ流溢ヲ防止ス沼井ノ中央ハ板ニヨリテ二部ニ分タル之ヲ夫婦臺ト稱シ其一部ヲ一枚ト云フ其中央ニ仕切板ノ設ケナキモノ即チ沼井一枚ニ相當スルモノヲ片臺ト名ツタヘ眞找ニ過立トエ立置面積、

長九尺九寸 幅六尺七寸八分

高一尺五寸普段ノ面積ミ舉此立積九十九立方尺六六六

此種ノ沼井ハ本鹽田ノ大部分ニ設置スルモノナレトモ試驗的ニ鹽田三枚(溝渠ト溝渠ノ間ヲ一枚トス)分ニハ下ノ如キ沼

井ヲ設置セリ

長八尺九寸

幅五尺三寸

高一尺三寸 此立積六十一方尺三二一

右二種ハ最普通ノ面積ヲ舉ケタルモノナレトモ邊隅ニ位置セル沼井ハ其地盤ノ廣狹ニヨリ面積ノ加減ヲナスコト往々アリトス

配置、沼井ハ普通鹽田一區劃ノ中央ヲ貫通シ整然トシテ駢列スレトモ時々ニ溝渠上ニ設ケラルゝモノアリ馬磯鹽田ノ一部ハ此法ニヨル片臺ハ多ク一列ノ末端ニ設ケラルゝモ時々溝渠ニ沿ヒテ一方ニ偏スルコトアリ又ハ例外ニ孤立シテ位置スルコトアリテ一定ナラスト雖モ要スルニ區劃ノ整然タル長方形ヲナサル鹽田ニ於テハ勢之ヲ孤立セシムルノ必要アルモノナリ

個數、鹽田段別一町七反七畝十步二〇五ノ内ニ配置シタル沼井ノ個數ハ夫婦臺七十一片臺十二ニシテ合計百五十四枚トス之ヲ沼井一枚ニ對スル鹽田ノ廣サニ割當ツレハ三十四坪五合五勺ニ相當ス即チ一臺ノ沼井ニ要スル鹽田面積六十九坪
一合ニシテ即チ幅七間半乃至七間三尺六寸長九間二尺ノ地面ニ沼井一臺ヲ設クル事トナルナリ

五 撒砂(鹹砂)貯藏裝置、大小、面積及撒砂(鹹砂)ヨリ鹹水ヲ採收スル方法 該當記事ナシ

六 鹹水輸送裝置ノ構造、面積及輸送ノ方法 鹹水輸送裝置ノ構造ニ三種アリ

一 御手濱鹽田ニ施設スルモノ

鹽田内適當ノ場所即チ各方ヨリ鹹水ヲ運搬スルニ最便利ナル箇所ヲ選ヒ高約一丈(高サハ豫メ一定シ難シ何トナレハ鹹水溜ノ平面ノ所在ニ準スレハナリ)ノ枠ヲ作り其上ニ木箱ヲ安置シ木箱ノ底ニハ蘆葦ヲ敷キ之ヲ滲透シテ箱ノ底側ニ設ケアル山筧ニヨリ鹹水溜ニ誘導スルモノトス其面積及大小左ノ如シ

木箱一間長五尺七寸 幅五尺一寸

鹽田内深一尺三寸 此立積三十七立方尺八間一尺二寸

容積五石八斗二升九合五勺

山筭 長四十六間

幅五寸

深四寸

立積五十五立方尺二

容積八石五斗一升五合弱

二 御手洗濱鹽田ニ施設スルモノ

鹽田内適當ノ場所ニ高二尺許ノ枠ヲ据ヘ其上ニ淺キ桶ヲ置キ桶底ニ藁筵ヲ敷キ底ノ中央ヲ通シテ直徑四寸内外ノ竹管ニ依リ鹹水ヲ輸送ス輸送ノ方法ハ山筭ニヨラス桶ヨリ直下セル竹管ハ直ニ地中ニ入り茲ニテ枕木ニヨリテ角度ヲナシテ鹹水溜ノ方向ニ走リ而シテ鹽田外ノ田堀ニ終ル斯クテ輸送サレタル鹹水ハ再ヒ刎釣瓶ニヨリテ田堀ヨリ鹹水溜ニ送致サル

桶ノ体積

圓徑

五尺二寸

深

二尺一寸

立積

四十四立方尺九

容積

六石八斗七升九合五勺

輸送管ノ容積ハ算出スルコト難シ

三 鹽田内ノ溝渠ニ沿ヒ適當ノ場所ニヶ所ヲ撰ヒ茲ニ沼井ニ類似セル構造ニヨリ外部ヲ粘土ニ内部ヲ板張トシ底ニ藁筵ヲ敷キタル方形ノ槽ヲ二乃至三個ヲ配置シ其間ヲ木製ノ筭又ハ半圓形ノ陶製樋管（長一尺内外ニシテ管ト管トハ粘土ニヨリ接合ス）ニテ連續セシメ槽内ニ擔搬シタル鹹水ハ此通路ニヨリテ田堀ニ導カレ以テ鹹水溜ニ送致サル今此裝置ニ要スル面積ヲ上クレハ左ノ如シ

圖三尺六寸三分

北山崎鹽田

正圖

井鹹水汲入槽

五個

長 三尺七寸三分

幅三尺六寸三分

深 六寸六分

立積 八立方尺九

容積 一石三斗七升八合四九

故ニ五個分ノ立積ハ四十四立方尺七ナリ而シテ該槽下底カ地面ニ於テ占ムル面積ヲ測ルニ平均左ノ如シ

長 四尺九寸

幅四尺七寸

面積 二十三平方尺

故ニ五個分ノ面積ハ百十五平方尺一五ニシテ其坪數三坪二合ヲ要ス然レトモ此槽ハ悉ク溝渠上ニ設ケラル、ヲ以テ溝渠ノ

面積ヲ扣除スレハ鹽田地盤上ヲ占ムル面積ハ左ノ如キ數值トナルヲ見ル

溝渠幅員

一尺七寸五分

長

四尺九寸

面積

八平方尺六

全數ノ面積

四十二平方尺九

坪數

一坪一合九勺

即チ二坪一勺ハ鹽田地盤ノ此槽ノタメニ占有セラル、ノ面積ナリ

貯ハ悉ク木製ニシテ

深 六寸六分

長 九十九間（但シ二個所ノ覧ノ長サヲ合計シタルモノ）

立積 二百五十八平方尺七

然レトモ此通路ハ溝渠ニ沿ヒ直ニ鹽田地盤上ニ走ルヲ以テ此立積ハ以テ輸送路ノ鹽田中ニ占ムル面積ニアラサルヲ以テ更ニ此通路カ幾許ノ地盤上ニ施設セラル、ヤヲ見サル可カラス

此通路カ溝渠ニ沿ヒテ設ケラレタル場所ハ地盤ヨリ高キコト最初ノ基點ニ於テ約一尺二三寸ニシテ漸次田堀ニ近ツクニ從ヒ減少シ且ツ其幅二尺三寸ニ及フ故ニ其面積ハ此幅ニ全長ヲ乘シテ得ヘシ

即チ一千三百六十六平方尺ニシテ此坪數三十七坪六ヲ算ス

附新濱鹽田

本鹽田ハ管内鹽田總面積ノ半ヲ占ムレトモ施設他ニ比シテ大ニ劣レリ鹹水輸送法ノ如キモ一つノ裝置ヲ備ヘシテ悉ク人肩ニ依テ鹹水溜ニ擔搬セラル何トナレハ此鹽田ニテハ探鹹地面ト煎熬場トハ其距離遠隔セルモノ多ク到底輸送裝置ヲ設クル能ハサレハナリ

七 採鹹用器具ノ名稱、種類、員數、構造、大小、形狀、効用及使用方法

名稱	員數	構造	造	効用及使用方法
沼井	一五四			
曳板	二	普通檻板ノ長サ一丈四尺巾五寸厚サ二分位 ノモノニ棕櫚繩ヲ附スレトモ纖維ト細胞ト ニ耗減ノ差ヲ生シ鎮壓ノ目的ヲ逸スルコト アルヲ以テ櫻板ヲ用フ	撒布シタル砂ヲ鎮壓シテ地盤ニ密着セシメ 且砂塊ヲ粉砕スルカタメニシテ繩紐ヲ持シ 後口手ヲナシテ爬砂後ヲ曳廻スナリ	

或ハ馬鍬曳

長サ六尺八寸内外巾三寸厚サ二寸許ノ木材ニ二十八本ノ竹爪ヲ植エ且中央部ニ長四尺三寸ノ木柄ヲ附シタルモノニシテ竹笊ハ之ヲ齒ト稱シ時ニハ二十六本ノモノアリ齒ハ竹ノ根ニ近キ最モ堅キ部ヲ割リテ製スレトモ地盤ノ硬固ナラサル鹽田ニテハ女竹ノ丸竹ヲ用ユルコトアリ齒ニ用ユル竹ハ八九寸廻リ長二尺内外ノモノ一本二錢五厘位ナリ

杉板製ニシテ圓形一尺一寸五分深一尺三寸

五分位トス二本ノ長キ手ヲ出シ之レニ横サマニ一本ノ一寸内外ノ四角材ヲ籍入シ夫レニ繩ヲ附ス

又普通ノ桶ヲモ備フ構造ハ別ニ記スルノ要アラサルヘシ

杉板製ニシテ竹縄ヲ施シタル口徑九寸底經六寸五分深六寸二分内外ノ木桶ニ長四尺二寸内外ノ竹柄ヲ附シタルモノナリ

柄ヲ附シタル部分稍々深ク口徑八寸底經一寸五分深サ六寸二分内外ノ木桶ニ長三尺七寸許リノ木柄ヲ附シタルモノナリ

櫻板製ノ薄キ鍬ニシテ多クハ先端ニ金屬ヲ押入セス其頭端ハ三寸ニシテ漸次膨大ニシテ七寸六分ニ至リ以テ先端ニ至ル長サハ普通一尺三四寸ニシテ柄ハ六尺三寸ナリ

木柄ヲ把持シ雙手ヲ後ニ廻シ之ヲ曳キ行キテ鹽田地盤ニ撒布シタル砂ヲ爬キ廻スモノニシテ柄ハ左右兩手ニ交互ニ把持セラル主トシテ撒砂ノ乾燥及攪拌ニヨリテ鹽分ノ吸收ヲ促スモノニシテ通常朝鍬晩鍬ノ二回之ヲ行ナヒ縱横小斜大斜等ノ曳方ヲナス

鹹水ヲ搬フニ用ユルモノニシテ繩ノ只一條ナルハ汲潮所其他ヨリ潮水ヲ汲上クルニ荷棒ニ吊セシマゝ之ヲ用ユルニ便ナル故ナリ

藻垂ヲ沼井内ニ汲込ミ又ハ潮水ヲ汲入ルノ用ヲナス

潮水ヲ鹽田ニ撒布シテ鹽田ノ吸収力ヲ促進スルニ用フ

沼井内ニ盛リタル骸砂ヲ沼井外ニ出シ其後ニ鹹砂ヲ入替フルタメニ沼井内ヲ堀ルニ用フ

堀 沼 井

荷 桶

藻 垂 杓

潮 打杓

漢 垂 杓

堀 沼 井

堀 沼 井

堀 沼 井

振
頭端ハ狭クシテ三寸内外ナリ柄ハ六尺三寸ニシテ鍬ノ先端ニハ金屬ヲ嵌入ス

沼井鍬ノ稍長キ形ニシテ長二尺六寸巾七寸上部ハ樅又ハ檜板ニテ製シ下部三寸計リヲ櫻板ニテ造ルコレ摩擦減少ニ堪ヘ得ルカタメナリ上端ハ巾一尺ニシテ漸時膨大シ三寸許リ下リテ二尺一寸五分トナリ最下部ハ二尺六寸五分ニ至ル其長二尺ニシテ柄ハ三尺七寸位ナリ

沼井ヨリ堀出シタル株土(撒砂)ハ三替ナルヲ以テ前ノ持濱日ノ朝堀シタルモノ)ヲ鹽田ニ撒布スルニ用フ此鍬ハ濱子ノ左差ト右差シニヨリ上端ノ摩擦減少ニ兩様アリ持濱ノ日沼井ヨリ骸砂ヲ堀出シタル跡ニ鹹砂ヲ入ル、タメ鹽田ニ撒布シタル砂ヲ寄セ沼井内ニ掬ヒ入ル、ニ用フ此ノ操作ハ迅速ヲ要ス何トナレハ前回持濱ノ日沼井ヨリ出サレタル砂ハ直ニ鹽田ニ撒布スルノ必要アレハナリ

栓
寄
せ
鍬

八

長三尺内外巾四寸内外ノ櫻板ニ木柄ヲ附シテ丁字形ニ作製シタルモノナリ

田面ノ撒砂ヲ寄セ集ムルタメニ之ヲ押シ行クモノトス

栓
寄
せ
鍬

八

粘土ヲ堅メテ適宜ノ形ヲ造リ其上ヲ藁ニテ掩ヒ其上ヲ堅ニ繩ヲ懸ケ又其上ヲ横ニ繩ニテ引縛リタルモノナリ

潮水ノ誘排ヲ行フノ用ニ供ス

樅
拔
棒

一

圓徑一寸内外長六尺乃至一丈ノ木材ノ下端ニ鐵ノ尖レルモヲ附シ鐵圈ニヨリテ固定セシメタルモノナリ

栓ヲ引抜キ又ハ差込ムニ用フ

當
て
子

一

小麥稈ヲ束ネテ偏平ナル箒形トナシタルモノナリ

潮水ヲ沼井内ニ注ク時キ鹹砂ノ散逸ヲ防止スルタメニ用フ

八 採鹹用器具ノ新調費及保存期限

品 名	員 數	新 代 價	調 單 價	費	保 存 年 限	一 ヶ 年 修 繕 回 數	一 ヶ 年 修 繕 費	一 ヶ 年 合 計 金 額
沼 井	一五四	六九三、〇〇〇	四、五〇〇		二十 年	一 ヶ 年 回 數	一 ヶ 年 修 繕 費	一 ヶ 年 合 計 金 額
					五 年			
					一 五 四			

九

鹹水貯藏装置ノ構造、大小、形狀及面積
長十六間巾四間三尺ノ長方形ノ槽ニシテ深五尺二寸ニ及フ其ノ底ニ近ク上
端ヨリ三尺三寸ノ所ニ巾一尺六寸高一尺九寸ノ凸所アリテ四周ヲ繞ル即チ腰巻ト稱スル部ニシテ是レ鹹水ノ漏泄ヲ防クタ
メニ厚キ層ヲ造成セルモノナリ

構造 長巾深共所要ノ尺度ヨリ二尺以上ヲ多ク堀リ取リテ土中ニ一大空穴ヲ造リ純然タル粘土ヲ附着シ槌ニテ打チ堅メ側

壁ニハ藁筵ヲ掩ヒテ又粘土ヲ附着シ其ノ厚二尺内外ニ及フ而シテ其ノ縁ハ地面ヨリ五六寸ヲ出ツル様ニ作ル是レ雨水ノ浸入ヲ防禦スルカ爲メナリ鹹水溜ノ上ニハ屋端ノ直接ニ地面ニ密接スル麥藁屋根ヲ葺クモノニシテ其長キ方ニ二個ノロヲ開キ槽底ニ塗積スル土砂ヲ排出スルニ便シ短キ方ニ人ノ通行口ヲ設ク鹹水溜ト屋根トノ中間ニハ往々鹹水溜中ニ建テラレタル柱ニヨリ地面ト殆ト同高ニ竹簀ヲ敷キ以テ採鹹用具ヲ屋裏ニ藏置スルノ用ニ供スルアリ又ハ濱子ノ仕事場ニ使用スルモノアレトモ本鹽田ニ於テハ二者共ニ別ニ設クルヲ以テ是等タメニ使用スルコトナシ

十 鹽田地盤ノ構造性質
鹽田ハ天然地盤ノ上ニ構造セラル田面ヲ穿堀シテ二尺ニ及ヒタル調査ニヨレハ最下層ハ粒徑五
粍乃至八粍ノ細砂ヲ以テ満ツ此ノ砂層ハ下部幾許ニ及フヤヲ測知シ難シ此砂層ノ上方ハ約一尺五寸ニシテ田面ニ達シ三層
ノ地層ヲ有ス第三層即チ下底ノ砂層ハ粒徑稍大ナル砂粒ヲ以テ満タサル、コト約七寸是ヲ天然地盤ノ終點トシ此上ニ人爲
的構成ヲ施シタルモノナリ第二層即チ人爲的構成ノ下層ハ微細ナル細砂土性ノ地層ニシテ其高サ約五寸稍固着ノ狀態ヲ有
ス所謂敷砂層ナリ第一層即チ上土ハ極微ノ土砂性地層ニシテ土砂各平方ニ近キ比ニ混合セルモノ約二寸ノ高サニ及ヒ硬固
堅牢ナル層ヲナス撒砂ハ即チ其上ニ撒布セラル此ノ鹽田ハ地盤ノ組成砂分ニ富ムト海面トノ關係適當セルヲ以テ地盤ノ吸
收力大ニ強ク夏季ノ酷熱ニ際シ乾燥力昂騰セルトキニハ鹹水ノ採收高非常ニ増進シ一日ノ採鹹量三日煎ニ相當スルコトア
リ故ニ秋冷季節以後ニ於テハ潮水ノ誘導ヲ減シテ吸收力ヲ節制セサレハ太陽熱ノ減少ト日中ノ短縮トニ應スル措置ヲ取ル
コト難シ

十一 撒砂ノ種類性質
撒砂ハ悉ク興居島ノ白石ト稱スル地ヨリ移入スルモノニシテ波濤ノ激動力ニヨリ海底ニ沈塗セル
細砂土ノ海岸ヨリ遙カニ距リタル地點ニ打寄セラレタルモノナリ故ニ其採收極メテ困難ニシ且ツ累年產出スルモノニアラ
サレハ其價額從テ高ク目下土船一艘ノ積量五圓ニ及フ本鹽田ニ於テハ毎年十五艘内外ノ移入ヲナシ以テ減耗ヲ補充ス撒砂
ハ方言之ヲ入レ替ト稱ス新濱新川ノ兩鹽田ハ附近ノ海濱ヨリ撰澤採取スルヲ以テ砂分多量ニ且粒徑大ナリ
今兩者ノ優劣ヲ比較スルニ前者ハ吸收力稍弱キカ如キモ鹽分附着ノ量ニ於テ優レリ前者ヲ用ヒテ濾過シタル鹹水ハ濃度大

ニシテ且ツ夾雜物ノ含量少ナリ然レトモ濾出ノ時間ハ後者ノ方却ツテ早シ
十二 撒砂ノ撒布量及替砂ノ數 沼井一枚ニ收容スル撒砂ノ量ヲ概算スルニ掬込鍬(新濱通稱)又ハ柄振(古三津用語)ニテ
十二回乃至十六回ヲ移入スルヲ以テ一回收容ノ量一斗六升五合(數回ノ分量ヲ平均シタルモノ)ヲ基礎トシテ計算スレハ左
ノ如シ

十一 最大容量 二石六斗四升

最小容量 一石九斗八升

而シテ撒砂一升ノ重量ハ約九百匁ニ近キモノニシテ素ヨリ鹽分附着ノ多少ニヨリ其ノ空隙ニ廣狹アルト比重ニ大小アルヲ
以テ一定不變ノ數字ヲ用ユルコト能ハサルハ勿論ナリトス此ノ重量ヲ基礎トシタル沼井一枚ニ收容スル撒砂ノ重量ハ
最大重量 二百三十七貫六百匁ニシテ

最小重量 百七十八貫二百匁ナリ

撒砂ノ量ハ炎暑期ニ多ク寒冷期ニ少ナシ是レ炎暑期ニ於テハ晝長キカ上ニ太陽ノ光線直射スルノミナラス潮水ノ溫度昇レ
ルヲ以テ多量ノ撒砂ヲ供給シテ多額ノ吸收ヲセシムルモ乾燥直チニ行ハルレトモ寒冷期ニ於テハ晝短ク潮水ノ溫度下リ且
ツ太陽南下スルヲ以テ撒砂ノ一方ノミ乾燥シテ背面ニ及フコトナキヲ以テ撒砂ノ供給ヲ減セサレハ吸收力絶エテ鹹水ノ濃
度減少スルヲ以テナリ今鹽田一坪ニ撒布セル撒砂ノ量ヲ概算スルニ炎暑期ニ於テハ約八升ニシテ寒冷期ニ於テハ約六升ナ
リトス是ヲ沼井一枚ニ收容スル數量ニ換算スルニ本鹽田ノ溝渠ヲ除キタル地盤ノ面積ハ

五千八十九坪ナルヲ以テ沼井一枚ニ對スル面積ハ三十三坪○四ナリ

故ニ沼井一枚ニ收容スル撒砂ノ量ハ 炎暑期ニ於テ二石六斗四升余

寒冷期ニ於テ一石九斗八升餘ナリニ敷マセドモアシテ其ノ面積ニ及ベ其ノ面積ニ及ベ其ノ面積ニ及ベ正六七丈出マヘシ其ノ面積ニ及ベ

ヲ施サス

撒砂ハ何レモ三替リニシテ一ハ沼井内ニ一ハ鹽田面ニ一ハ株土トシテ沼井ノ傍ラニ堆積セラル骸砂ハ方言之ヲ「タレカス」ト呼フ新濱鹽田ノ一部ハ二替法ヲ用フルモノアリ

十三 撒砂乾燥ノ時間 撒砂乾燥ノ時間ハ之ヲ天然ニ放任スレハ太陽熱ノ強弱ト晝間ノ長短トニヨリ遅速アルヘキハ自然ノ數ナレトモ作業上ヨリ之ヲ見レハ乾燥時間ニ遅速アラシムルハ作業進歩上不經濟ヲ免カレサルカ故ニ力メテ時間ノ均一ヲ圖ルハ免ル可カラサル數ナリ何トナレハ鹽田操作ノ順序上正午ヨリ曳鍬ヲ行ヒ約一時間ニテ終了シ午後二時ヨリ濱持ニ移ラサル可カラサレハナリ故ニ撒砂乾燥ノ時間ハ約一時間ト見做シテ大差ナカルヘシ其乾燥濕潤ノ適度ヲ計ルハ潮水ノ多少ト触砂ノ緩急ニ俟ツコト大ナルハ言ヲ要セス此ノ作業ハ一二當業者ノ經驗ト注意トニ依頼セサルヲ得ス

十四 撒砂(鹹砂)浸出裝置(沼井又ハ臺等)ニ注入スル海水ノ量(鹹水採收用トもんだけ採收用トニ依リ各別ノ容量)及鹹水又ハもんだけ採收量 撒砂瀘過裝置ニハ沼井ヲ用フ沼井ニ注入スル海水ノ量ハ到底之ヲ精密ニ記述スルコト難シ何トナレ

ハ同一時季ニ於テモ温熱風位水蒸氣ノ擴散、晴曇等氣象上ノ變化ハ鹽分附着ノ量ニ至大ノ關係ヲ及ホセトモ採取スヘキ鹹水ノ濃度ハ可成的高度ナルモノヲ一定セル標準ニヨラサル可カラサレハ鹽分ノ附着小量ナレハ注入潮水從テ少ナク鹽分ノ附着多量ナレハ之ニ應シテ注入潮水ノ量大ナレハナリ殊ニ降雨ノ前兆アル日ノ如キハ替持ニヨルヘキ濱モ便宜上日持ニ變更スル等ノコトアリ况ヤ炎暑期ト寒冷期トニヨリ且ツ注入量ニ非常ノ差異アルニ於テオヤ

藻垂採收用ニ於ケル潮水注入量ハ普通擔ヒ桶ニ一荷半即チ六斗ヲ汲入ルレトモ是亦降雨ノ前日等ニ於テハ潮水ヲ藻垂穴ニ充满セシメ其ノ比重ノ大ナルヲ利用シテ雨水ト分タシムルタメ適宜ニ之ヲ注入スル要アルヨリ其注入量ハ藻垂穴ノ容積ニ正比例セサルヘカラス藻垂ノ採收量ハ右ノ如ク一定シタル容量ナシト雖モ約六斗ト假定スレハ是ニ一ヶ年ノ採鹹日數ヲ乘シタルモノハ其最小容量ナルヘシ

鹹水ノ採收量ハ之ヲ歸納的ニ算出スル爲明治三十三年ノ採鹹日數及煎熬日數ヲ基礎トシ左ノ三種ノ推理ヲナセリ

甲 煎熬ヨリ算出シタルモノ

甲二石八斗乾出シキウツ一釜ノ煎熬鹹水量

十人一劔回イニシキカイ一晝夜ノ煎熬回數

百六十三日其量小者量スモヒヨウ明治三十三年ニ於ケル煎熬日數

一ヶ年ノ採鹹量五千二十石四斗

乙沼井數ヨリ一ヶ年ヲ通シテ算出シタルモノ

四斗四升外シヨウシヨウ沼水每天量沼井一枚平均一日ノ採鹹量

七十七枚

半分乃チ替持一日ノ沼井割當數

百四十八日明治三十三年ニ於ケル採鹹日數

一ヶ年ノ採鹹量五千十四石二斗四升

丙季節ニ分チチ算出シタルモノ

斗乾出量十二、一、二、三月ニ於ケル沼井一枚一日平均採鹹量

十四斗四升外シヨウシヨウ沼水每天量全前采鹹日數

七升每斗爲一對イシヨウシヨウ大七、八月ニ於ケル

斗乾出量十二、一、二、三月間ノ採鹹日數

三十八日斗乾出量十二、一、二、三月間ノ採鹹日數

三十九日乾出量十二、一、二、三月間ノ採鹹日數

斗乾出量十二、一、二、三月間ノ採鹹日數

二十八日乾出量十二、一、二、三月間ノ採鹹日數

全前

(本表ハ陰曆ニヨリ製鹽者ノ記録セシモノヲ調査シタルカ故ニ陽曆ヨリ一ヶ月宛後レタル理由ナリ) トセ

一ヶ年ノ採鹹量四千九百八十四石五斗

右三種ノ推定ハ畧近似セル計算ノ結果ヲ生スルニヨリ大ナル誤謬ナシト斷定スルコトヲ得ヘシ然レトモ天候ニ支配セラル
、モノナレハ確定シタル數値ヲ見出スコト難キハ明カナル事實ニシテ炎暑酷熱ノ際風位ノ關係ニヨリ一月間沼井一枚ヨリ
二荷半(即チ一石)乃至三荷(即チ一石二斗)ノ鹹水ヲ採收スルコト四五回アリ又寒冷期ニ於テモ空氣非常ニ乾燥シ西北風適
宜ニ吹キ來ラハ一荷半即チ六斗ノ鹹水ヲ得ルコト往々アリサレトモ是等ハ常規外ノ事柄ナレハ姑ク前述ノ數量ニヨラサル
可カラス更ニ之ヲ重復スレハ一八六斗

鹹水一日ノ採收量ハ

○四一二三
最多
若一石二斗

○四〇六
最少
一斗五升

平均
四斗四升

ト見做シテ可ナラン

十五 海水、鹹水、もんだれノ性質

一 採收期間
十一月一日ヨリ十日ニ至ル

一 氣象

前記十日間ノ内十一月二日ニ降雨アリシ外悉ク晴天ニシテ加フルニ風位適當ナリシタメ鹹水採

收ニハ可ナル天候ナリシ
十二月二十日

一 鹹水溫度

攝氏十八度

一 全比重

ボーメー十九度五分二十秒

一 鹹化曹達

一二、七六八一

一 鹹化加里

一、九三八四

一 硫酸苦土

○、五四七三

一 硫酸石灰 ○、四六〇三

一 固形物全量 一六、九〇五〇

一 鹽水ハ臺取トナシタルモノナリ 一武〇八

藻垂ノ理化學的性質 一二、九六八

一 探收 出量 十一月十日午前九時三十分

一 氣象 晴 風位西北

一 藻垂溫度 天氣七度 二十一度五分

一 全比重 ボーメ七度五分十一月一日ニ製造アリテ後悉く潮天ニシテ晴ルハ風位西北七度五分

一 鹽化曹達 四、九六五四 十月二五八

十二 鹽化加里水 ○、七五二七

十一 鹽化苦土 ○、六五〇二

一 硫酸苦土 ○、四〇六一重文 一卡正根

鈉水硫酸石灰 出量 ○、四一二三

一 固形物全量 七、一八六七

海水ノ理化學的性質
二〇 採收モ一ノイハ至三時十一月十九日午前九時三十分ヘヨロ十四正回アリ又寒帝限ニ外テテ空氣常ニ諱氣ニ西井風
一 氣象 ハ晴天アリ大晴ニ風位西北イ義字ヘ開成アリ海實チメテ炎暑猛烈ハ猶風對ア爾海ニシテ一月間留我一時日
一 海水ノ溫度 暑氣四時二十一度果モ少々ニヨリ大ヤハ颶風セリオ潮宗又此ニヨリ衝ヘシ然マヨ天熱ニ支酒ナシ
一 全 比重 四半武百八一度八分長

一 鹽化曹達

二、二九三三

一 鹽化加里

○、四一八二

一 鹽化苦土

○、三〇八二

一 硫酸苦土

○、一九五四

一 硫酸石灰

○、一二七七

一 固形物全量

三、三四二七

十六 海水引入及排出(水閘)海水汲揚裝置及汲揚方法 海水ノ誘入及排出ハ悉ク閘門ニ依ル潮廻リ溝渠ニ接續シテ高サ約八九尺幅六七尺ノ石塘ヲ築造シ其下部ニ徑約一尺ノ空穴ヲ通シ以テ潮水ノ出入ニ供ス石塘ハ是レヨリ左右兩側相對シ海面ニ向フテ走リ砂濱ニ至リテ其ノ内ニ埋沒ス其ノ埋沒ノ始際ニ於テ左右兩側ノ石塘ハ再ヒ合シテ一トナリ其ノ下部ニ復一空穴ヲ穿ツ空穴ハ長ク海面ニ通シ整石之ヲ掩被シテ海中ニ終ル本鹽田ニ於テハ入口ト排出口トヲ別個ニ設置スレトモ往々ニシテ兩様ノ作用ヲ辨スルモノアリ

水閘ハ干潮時ノ海面ヨリ高キコト約四尺ニシテ普通満潮時ノ海面ヨリ低キコト亦四尺内外ナリ

十七 海水貯溜池ノ有無、大小、深淺及面積

該當記事ナシ

十八 鹽田一戸前又ハ一定反別ニ就キテ一ヶ年平均鹹水採收量及月別鹹水採收歩合 第十四項ニ於テ説述シタル如ク從來ニ於ケル一ヶ年間ノ採鹹量及月別歩合ハ到底數字的ニ之ヲ記録スルコト難ク只歸納的ニ之ヲ推究スルニアラサレハ記録ノ以テ徵スヘキモノアラサレハナリ平均比重亦然リトス然レトモ猶茲ニ三十三年以降五ヶ年間ノ採鹹及煎熬日數ヲ基トシテ推究シタル結果ヲ上ケテ聊カ參考ニ便セントス

鹽田反別一町七反七畝十步

採鹹日數

三十一年	三十二年	三十三年	三十四年	三十五年	三十六年	三十七年	
月月月月月月月							
煎熬日數							
固液全量							
六五四三二一 ○四一八二九 二二二二二二 一四三三二二 一五九七一 一七二九三〇 一九三三二二	一六七八九五 ○六一八二九 二二二二二二 一四三三二二 一五九七一 一七二九三〇 一九三三二二	一六八五八五 ○六一八二九 二二二二二二 一四三三二二 一五九七一 一七二九三〇 一九三三二二	一六八五八五 ○六一八二九 二二二二二二 一四三三二二 一五九七一 一七二九三〇 一九三三二二	一六八五八五 ○六一八二九 二二二二二二 一四三三二二 一五九七一 一七二九三〇 一九三三二二	一六八五八五 ○六一八二九 二二二二二二 一四三三二二 一五九七一 一七二九三〇 一九三三二二	一六八五八五 ○六一八二九 二二二二二二 一四三三二二 一五九七一 一七二九三〇 一九三三二二	一六八五八五 ○六一八二九 二二二二二二 一四三三二二 一五九七一 一七二九三〇 一九三三二二
計	計	計	計	計	計	計	
二一							

七	月	一八	十一	月	五	三	二五	三	二五
八	月	一五	十二	月	二六	一	二六	一	二六
九	月	二三	十三	月	二三	二	二三	二	二三
十	月	二六	十四	月	二六	三	二六	三	二六
十一	月	二二	十五	月	二二	四	二二	四	二二
十二	月	一七	十六	月	一七	五	一七	五	一七
一	月	一七	十七	月	一七	六	一七	六	一七
二	月	一七	十八	月	一七	七	一七	七	一七
計		一六三			一四五	一四五	一四五	一四五	一四五
					一二七	一二七	一二七	一二七	一二七
					一七〇	一七〇	一七〇	一七〇	一七〇
					一九三	一九三	一九三	一九三	一九三

以上ノ數字ヨリ第十四項ニ於テ假定シタル沼井一枚一日ノ平均採鹹量四斗四升ヲ基礎トシテ三十四年ノ煎熬日數ヲ算出スレハ即チ百三十七日ヲ示シ百四十五日ニ稍近似セル數ヲ得斯クシテ算出シタル數字ヲ列舉シテ實際ノ煎熬日數ト對照スレハ左ノ如シ

年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
三	十	三	年	百	六	十	二	日	日
三	十	四	年	百	三	十	二	日	日
三	十	五	年	百	二	十	二	日	日
三	十	六	年	百	八	十	二	日	日
三	十	七	年	百	七	十	三	日	日
平	均			百	五	十	五	日、	二

算	出	シ	タ	ル	日	數	實	際	ノ	日	數
百	百	百	百	百	六	十	三	日	日	日	日
百	百	百	百	百	四	十	五	日	日	日	日
百	百	百	百	百	二	十	七	日	日	日	日
百	百	百	百	百	七	十	七	日	日	日	日
五	十	九	十	九	十	三	日	日	日	日	日
一	九	九	九	九	六	六	六	日	日	日	日

素ヨリ鹹水ノ濃淡釜ノ巧拙燃料ノ良否ニヨリ一晝夜ノ煎熬回數ニ多少アルヘケレハ到底精密ナル答案ヲ得難シト雖モ如上ノ結果ニヨリ沼井一枚ニ付一ヶ年ヲ通シテ平均四斗四升ノ鹹水ヲ得ヘキコト及ビ第十四項ニ上ケタル季節ニヨル鹹水量ノ假定モ稍信ニ近キモノ、如シ

比重ノ測定ハ鹽業者ニ於テ最モ必要ナル事項ニシテ鹹水採收ノ際ハ必ス之ニ依ルモノナレトモ之ヲ記録ニ存シタルモノナク且本年六月以降漸ク之ヲ記録スト雖モ未タ一ヶ年ニ涉ル平均數ヲ得ルニ道ナシ今ハ只鹽業者ノ記憶ニ存スル數字ヲ上ケ其ノ精細ナル調査ハ之ヲ他日ニ期セントス

十二月乃至三月

十四、五度

四月乃至六月

十六、七度

七月乃至九月

十九乃至二十一度

十月乃至十一月

十五、六度

十九 鹽田一戸前又ハ一定反別ニ就キテ採鹹ニ要スル人夫ノ種類、名稱、員數及賃銀

名稱	種別	人員	賃	銀
頭差し濱子	一般作業ノ總支配ヲナス 差圖濱子ノ略語ニシテ一般作業ノ外時ニ頭ノ代理ヲナス	一	月給	七圓
水配子	一般作業ノ外潮水ノ誘排ニ關スルコトヲ掌ル	一	月給	六圓七拾錢
濱寄子	並濱子又ハ平人ト云ヒ一般作業ヲ擔當ス 曳鉤、鎮壓及採鹹等ヲ手傳フ	二	月給	六圓七拾錢
		一〇	日給	六圓五拾錢
			錢	

濱子ノ賃銀ハ上記ノ如ク月額ノ定メナレトモ陰曆十二月二十五日ヨリ翌年正月廿日迄ハ休業シ郷里ニ越年スルテ以テ（當所管内各鹽田ノ濱子ハ主トシテ木ノ浦津倉島波止濱ヨリ來レルモノナリ）其間ノ給金ハ日割勘定トス且月數計算ノ方法ハ悉ク陰曆ニ依ルヲ以テ三ヶ年毎ニ一回ノ閏月ヲ加算セサル可カラス今詳細ニ其ノ賃銀額ヲ計算スレハ左ノ如シ

正月分	二月ヨリ迄	十二月分小計	三ヶ年總額	閏月分總計	一ヶ年平均

頭 差 水 濱	二、三三 二、三三 全 子	七〇、〇〇〇 五、〇〇〇 全 全	毛、九三 五、〇〇〇 全 全	三三、七九九 六、七〇〇 全 全	二四〇、七九九 三〇、四九九 全 全	八〇、二二二 七、八二二 全 全

故ニ一ヶ年ノ平均勞銀合計即チ參百八十二圓五十八錢二厘トス

寄セ子ハ日給ニシテ雇入レタル時々支給スルモノナレハ其貲銀額ハ探鹹日數ノ多少ニ比例スルモノナレトモ一ヶ年ノ平均探鹹日數ヲ百四十八日ト概算スレハ百四十八圓ヲ要ス故ニ探鹹人夫一ヶ年間ノ平均總貯金ハ左ノ如シ

金參百八十二圓五十八錢二厘

金百四拾八圓

計金五百三十圓五十八錢二厘

寄子貯金

二十 碱水探收時季及探鹹量ト風位トノ關係 碱水探收時季トシテ具體的ニ之レヲ摘出スルコト難シト雖モ溫熱光線、空氣ノ乾燥風位等氣象ノ關係カ鹽田ノ吸收力ニ適度ニ打勝ツ時ハ探鹹ノ量ハ増加スルモノナレハ一ヶ年内ニ於テ七、八、九、ノ三ヶ月ハ最モ探鹹ニ適スル時季ナリトス一、二月ハ陰雲天日ヲ掩ヒ加フルニ日短カク雨雪霏々トシテ濕氣滿ツルヲ以テ探鹹ニ適セス十一、十二月ノ交ハ時雨度々到リ加フルニ冷露頻ニ置クノ時ニシテ亦探鹹ニ不可ナルノ時ナリサレトモ冬季天晴レテ西北ノ風徐々ニ至リ空氣乾燥シテ風ハ軟カニ鹽田面ヲ摩シ去ルノ時ハ夏季ニ劣ラサルノ探鹹ヲナシ得ルコトアリ

要スルニ夏季ト西北風ハ探鹹ニ欠クヘカラサル利器ニシテ且一日内ニ於ケル探鹹ノ好時刻ハ午后二時前後ナルモノ、如シ二十一 チ一ヶ年間ノ探鹹平均日數ト一ヶ年間ノ探鹹平均日數ハ第十四第十八兩項ニ記述シタル如ク約百四十八日ト定メテ

二大差ナシ

三十一年	三十四年	三十五年	三十六年	三十七年	三十八年
一四九	一三七	一一九	一三九	一三九	一三六、六
金 百 煎 熬 日 數	金 百 煎 熬 日 數	金 百 煎 熬 日 數	金 百 煎 熬 日 數	金 百 煎 熬 日 數	金 百 煎 熬 日 數
一六四	一七〇	一五三	一八五	一五六	一七五、六
三十一年	三十四年	三十五年	三十六年	三十七年	三十八年
中田ニ就テハ左ノ如シ	反別一町二反八畝十二歩	沼井數百二十六枚	中田ニ就テハ左ノ如シ	反別一町二反八畝十二歩	沼井數百二十六枚
右ノ數字ヨリ算出シタル一箇年ノ煎熬量ハ三千三百二十九石一斗	右ノ數字ヨリ算出シタル一箇年ノ煎熬量ハ三千三百二十九石一斗	右ノ數字ヨリ算出シタル一箇年ノ煎熬量ハ三千三百二十九石一斗	右ノ數字ヨリ算出シタル一箇年ノ煎熬量ハ三千三百二十九石一斗	右ノ數字ヨリ算出シタル一箇年ノ煎熬量ハ三千三百二十九石一斗	右ノ數字ヨリ算出シタル一箇年ノ煎熬量ハ三千三百二十九石一斗
一日ノ採鹹量ハ十八石九斗一升五合	一日ノ採鹹量ハ十八石九斗一升五合	一日ノ採鹹量ハ十八石九斗一升五合	一日ノ採鹹量ハ十八石九斗一升五合	一日ノ採鹹量ハ十八石九斗一升五合	一日ノ採鹹量ハ十八石九斗一升五合
一晝夜ノ煎熬釜數	九釜	九釜	九釜	九釜	九釜
一釜ノ煎熬鹹水量	二石七斗	二石七斗	二石七斗	二石七斗	二石七斗

沼井一枚一日ノ採鹹量ハ三斗二合五勺
是ヨリ算出シタル一ヶ年一軒前ノ採鹹量ハ三千九百八十二石六斗

下田ニ就テ算出シタルモノハ左ノ如シ

採鹹日數

三十一年	三十四年	三十五年	三十六年	三十七年	平 均
八三	六八	七三	八〇	八四	七九、二
三十一年	三十四年	三十五年	三十六年	三十七年	平 均
六七	五五	一六二、五三、五	六二	七五	六二、五
一晝夜ノ煎熬鹹釜數	二石五斗	八 釜			

一釜ノ煎熬鹹水量
一釜ノ煎熬鹹釜數

右ノ數字ヨリ算出シタル一ヶ年ノ煎熬量ハ

一千二百五十石ニシテ一日沼井一枚ノ採鹹量ハ二斗三升トス
右ハ鹽田六反九畝貳拾六步沼井數六十九枚ニツキ算出シタルモノニシテ之ヲ一軒前ニ換算スレハ全々其準則ミ那波入
二千七百四十八石〇九升トナルヘシ
更ニ一括シテ之ヲ示セハ左ノ如シ

一ヶ年間鹽田一軒前ノ平均鹹水採收量

上

田

中

田

下

四三四八石一〇

三九八二石六〇

二七四八石〇九

二十三 準備濱及持濱其他探鹹ニ關スル操作ノ順序及方法 準備濱日數ハ記録ノ徵スヘキモノナク其考證ラ缺如スルモ探鹹日數ヲ下ルコトハ理論上ヨリ得ヘカラサル事ニシテ偶々準備シタル濱ノ降雨若シクハ鹽分ノ不附着等ニヨリ探鹹シ得サル日數ハ約一割ニ上ルベク其他ハ全ク濱ノ操業ヲナサル日ナリ今之ヲ數字的ニ列記スレハ大凡左ノ比例ヲ見ルヘシ
一翁、萬葉地水量

探鹹日數 一四八日

準備濱日數 一六三日

全ク操業セサル日 五四日

探鹹ハ悉ク替持法ニシテ時ニ日持ヲ行フ事アリ是レ翌日ノ天候如何ヲ氣遣フカ如キ特殊ノ際ニ用フルモノトス
準備作業ノ順序ハ左ノ如シ

第一 午前六時ヨリ七時前後ノ間ニ於テ濱子五人共朝鍬ヲ入ル朝鍬ハ通常大斜ト横ノ二鍬トス朝鍬終レハ直チニ曳板ニテ鎮壓ヲ行フ第二鎮壓ノ後ニ於テ撒潮スカクシテ午前中ノ作業ヲ終了ス

午后ニ於ケル操作ハ晚鍬(夜濱)ト稱シ縦ト小斜ノ二鍬ヲ入レ午后一時頃ニ之ヲ終ル後午后四時前後ニ於テ一度鎮壓ヲ行ヒ茲ニ全ク準備作業ヲ了ルモノトス

探鹹作業ノ順序ハ下ノ如シ

第一 午前六時頃ヨリ沼井堀ヲ行フ撒砂ハ悉ク三替ニ使用スルヲ以テ鹽田ニ撒布セルモノト沼井内ニアルモノトたれか

す又ハたれ土ト通稱シ沼井ノ四隅ニ堆積セラレタル株土トノ三種アリ沼井堀ノ操作ハ先ツ株土ヲ沼井堀鍬ニテ切り下ケ其空所ニ沼井内ノ骸砂ヲ堀出シテ堆積シ銳尖ナル一個ノ火山形ノ盛土ヲ造リ以テ撒砂ヲ收容スルノ準備ヲナスニアリ

第二 午前十一時頃ヨリ曳鍬ヲ行フ曳鍬ハ三臺越二鍬(往復ノ事)横縦各一鍬ヲ入レ午后一時前ニ終ル

第三 午后二時前集砂ヲ行フ集砂ニハ寄セ子ヲ使役ス寄セ子ハ寄セ鍬ニテ沼井一臺ニ相當スル撒砂ヲ其近傍ヨリ沼井ノ傍ニ押シ寄セ濱子ハ沼井内ニ入りテ上部ヨリ砂ヲ平等ニ踏固メ潮水注加ノ際水ノ浸透ヲ平均セシムルノ準備ヲナス

第四 撒砂ヲ沼井ニ收容シ終レハ濱子ハ前々回使用セル撒砂即チ株土ヲ鹽田ニ撒砂ス此ノ際使用スルハ即チ振鍬ナリ而シテ他方ニ於テハ藻垂杓ヲ用イテ藻垂鹹水ヲ沼井内ニ注クモノト溝渠ヨリ潮水ヲ擔搬シテ沼井ニ注クトノ操作ヲナス此時沼井内ニハあてこヲ置キテ砂ノ凹陷ヲ防止ス溝渠ニハ往々汲潮所ヲ設クルモノアレトモ本鹽田ニハ此施設ナシ

第五 寄セ子ハ沼井内ノ砂ノ上部ヲ平坦ニシテ潮水ノ滲透ヲ補助シ後一度縱鍬ヲ入レ而シテ鎮壓ヲ行フ

第六 鹹水ノ藻垂穴ニ滴下スルヲ待ツテ其比重ヲ測定シ適宜ノ潮水ヲ注キテ後滴下鹹水ハ輸送裝置ニ擔搬セラル擔搬終レハ藻垂ヲ充タシテ採鹹ヲ終ル

第七 縱鍬ヲ入レタル鹽田面ニハ一度濱子ニヨリテ撒潮ヲ行ヒ以テ此日ノ作業ヲ終ル新濱鹽田ニハ散潮ノ水ヲ貯フル爲メ溝渠ヨリ遠距離ノ點ニ桶ヲ埋メテ潮ヲ貯フレトモ本鹽田ニハ此施設ナシ雨後ニ於ケル操作

降雨ノ兆アレハ潮水ヲ鹽田ニ充溢セシメ以テ雨水ノ透竄ヲ防キ天候順ニ復スレハ濱起シ(七八回ヲ普通トス)ヲ行ナヒテ撒砂ヲ爬起シ以テ普通ノ作業ニ移ル

乙 鹹水煎熬

一 釜屋ノ構造、大小、廣狹及面積 釜屋ハ何レモ五間四方即チ二十五坪ヲ以テ殆ント通則トス

家根ハ藁葺ニシテ低ク四方ニ垂レ両端ニ口ヲ開キ發散スル鹹水ノ蒸氣ヲ漏出セシムル所トス稀ニハ家根ノ中央ニ引窓ヲ設ケ一ハ蒸氣ヲ抜キ側ラ一ハ明リヲ入ル、ニ供スルモノアリ釜屋ノ四方ハ粗ラ壁トシ前面ノ中央及ヒ側部ニ二個ノ入口ヲ開キ板戸ヲ以テ開閉ス内部ハ中央ニ鹽燒キ釜ヲ据付ケ其後ロニハ斜ニ溝ヲ穿チ上部ヲ粘土ニテ塗リ塞キ以テ烟道トナシ後部ノ右隅ヨリ屋外ニ通シ屋後ニ烟出シヲ築キ其烟ヲ空中ニ放散セシムルモノトス

竈ノ後口煙道ノ上ニハ温メ釜二個ヲ懸ケ其側ラニ溜桶ヲ埋ム釜屋入口ノ右ノ隅ニハ石炭置場アリ左隅ニハ居出シト稱シ釜ニテ焚キ上ケタル鹽ヲ放置スル所トス又疊一疊敷位ノ釜焚人ノ部屋ヲ設ケ釜屋ノ内部ハ釜屋ニ依リテハ鹽置場又ハ石炭置場ノ位置ヲ異ニスル等一樣ナラサルモ管内略以上ノ如シ

二 釜及竈ノ種類構造、大小、製造原料及釜ノ深淺

釜ノ種類

結晶釜

石釜

温釜

鐵釜

竈ノ種類構造及ヒ其製造原料

泥土ト煉瓦ヲ以テ製セシモノニシテ別ニ種類ナシ

釜ノ構造及ヒ其製造原料

泥土五十貫ト鹽一石トヲ混合シタルモノヲ以テ方五寸厚サ五分位ノ石ヲ包合シタルモノヲ土

井上ノ板上ニ並列シ上方ヨリ四十五本ノ釣金ヲ以テ釣リタルモノナリ但シ前上ノ原料石ハ時トシテ半圓形ノ自然石ヲ用

ユルコトアリ

釜ノ大小

長サ一丈二尺

幅八尺五寸

釜ノ深淺

四寸五分

温釜ノ大小

一石七斗入

一石五斗
一石二斗

三 石釜及竈築造方法及築造後使用ニ至ルマテノ操作

石釜及ヒ竈築造方法ハ前述セリ其使用ニ至ル迄ノ操作ハ次ノ如シ
石釜使用ニ至ル迄ノ操作 新築セル石釜ノ上部ニ石灰約七八貫目ヲ水ニテ溶解シタルモノヲ塗布シ其上ニ燃木約六十貫
目ヲ並列シ其上部ヲ濕蓆ニテ蔽ヒ燃木ニ点火シ其灰儘トナルヲ俟テ豫テ設備セル釣金ヲ繩ニテ釣リ土井上ノ板ヲ抜キ去
リ釜中ニ鹹水ヲ入レもじ竹ニテ釜中ノ高低ヲ平均シタル后石炭ヲ竈中ニ入レ煎熬ヲ初ム

竈ノ使用ニ至ルマテノ操作 竈ハ約深サ三尺許リナル角穴ヲ堀リ穴ノ上ニハ四方ニ高サ約一尺許リノ石ト粘土トヲ以テ
堀状ニ塗リ上ケ竈内ハ焰焰状ニ中四ニ粘土ニテ塗リ均ラシ中央堅ニ深サ約三尺ノ溝ヲ設ケ其溝ノ上ニハ鐵片數條ヲ渡シ
此上ニテ燃料ヲ燃焼スル所トシ其溝ハ前面ノ中央ニ達シ上下二口ヲ分レテ竈口トナル其上口ハ即チ燃料ナル石炭ヲ投入
スル所ニシテ其下口ハ燃骸ヲ搔キ取ル所トス

又竈ノ左右両側面ニハ各二個宛ノ小口ヲ穿ナ此口ヨリ竈中ノ燃料ヲ突キ交セ燃骸ヲ溝中ニ落下セシムルモノトス

四 鹹水ヲ釜屋ニ輸送スル裝置、構造及方法

鹹水貯藏場ト瓢簞間ニ竹樋ヲ通シ以テ鹹水ヲ釜屋ニ輸送スル外別ニ裝置ナ

五 煎熬用器具ノ名稱、種類、員數、形狀、大小、構造及方法

名稱	員數	大	小	構造	摘要	要
煮	一組	一	一			
釣						
苦						
擢						
上げ						
汁						
出						
桶						
瓶						
壺						
板						
先						
振						
杓						
柄						
廻し						
取						
廻						

目釣縁湯鎌鶴大地蘆檳溫竹釜鹽もさ燒こ泡大ひ苦
釜附玄堀屏杆柱じな根汁安角金金金甕嘴翁鍬風錐釜簍石籠竹板板しふん太取杓

苦汁ヲ釜ニ汲ミ入レ又ハ擢先ヨリ苦汁溜ニ汲ミ入ルモノ

煎熬中泡ヲ取ルモノ

釣ヲツル爲メニ用ユル

鹹水貯藏場ヨリ移入スル鹹水溜

釣ラツル爲ニ用ユルモノ

右全

釜裝置用

右全

釣繩ニ挿入シテ釜ノ高低ヲ平均スルモノ

焚出シ鹽ヲ一時入ル、モノ

大根太ヲ支持スルモノ

鹽籠ヲ置ク

鹹水ヲ温ムルモ

テニヨヲ開クモ

竈中ニ風ノ吹込ヲ防クモノ

竈築造用

全

全

全
文

釜裝置用

全

釜裝置用

全

金其他煎熬用器具新調費、修繕費及保存期限				
品名	數量	新調費	修繕費	保存期限
煮 鉤	一	○、八〇〇 <small>円</small>		
瓶 桶	一	○、五〇〇		
大 根	一 ケ 年	大根太 <small>ひょうたん</small>		
	二	二、五〇〇 <small>円</small>		
	七、〇〇〇			
十 ケ 年	一			
三十 ケ 年	一			

- 之ヲ長州炭又ハ九州炭ト稱ス總ヘテ品質ハ下等ニシテ其價格最モ低キヲ撰ム長州炭一萬斤價額四十圓九州炭一萬斤價格二
 十四圓(三十九年)一月相場概シテ發熱量ハ五千八百熱位ナリ
- 八 一釜ニ使用スル鹹水容量及製造鹽等級別數量、一釜煎熬ニ使用スル燃料ノ數量 一釜ニ使用スル鹹水容量ハ釜ノ大小
 ニ依リ一樣ナラス又製造鹽ノ數量モ鹹水如何ニヨリ一樣ナラスト雖モ多クハ一釜鹹水容量三石三斗三舛比重十九度溫度攝
 氏十八度ニシテ此製造鹽容量九斗九舛ニ合重量百五十七斤等級二等又一釜煎熬ニ使用スル燃料ハ百七十斤ナリ
- 九 煎熬ニ使用スル各種石炭混合ノ割合三池炭、三分乃至四分ト元山炭七分乃至六分ノ割合ナリ
- 十 鹹水ヲ釜ニ注加スルニ先チ汚物ヲ除去スル爲メ之ヲ濾過スル裝置ノ有無、構造及方法 該當記事ナシ
- 十一 鹹田一戸前又ハ一定反別ヨリ得タル鹹水煎熬ニ要スル人夫ノ種類、名稱、員數及賃銀 一町七反七畝十步ヨリ得タル鹹水煎熬ニ要スル人夫賃一ヶ年ノ總賃銀額百六十五圓十二錢ニシテ釜焚二人一ヶ年平均各一人當リ日給四十三錢ナリ但シ一人一日玄米一舛五合ヲ給ス
- 十二 畫夜ニ於テ煎熬ヲ終ル釜數及鹹水量並ニ其收鹽量以本項一畫夜ニ於ケルモノ未タ細密ナル調査ヲ遂ケタルモノナキモ今一二釜數ニ就キ調査シタルモノニ因リ平均ノモノヲ擧クレハ左ノ如シ要言之中間開窓てもせん改次式ニ善
 甲羅4勝釜、柄數數計大、十一釜蓋へ蓋土り墨々對田ニ盛み水味ナキモ此を起て墨水入水也、水味入水也、
 十五 鱗蒸鹹水水量計大、三十石一斗九舛ヘモ百釜々勤用シ其對田缺間ニ延常三十日有イモ此缺間ニ墨々ヘ釜面
 土ニ計蓋收ナ鹽一量ニ當マ及キ蓋者細末ヘ衣封マ粉ナキ墨出シ墨ナキモベノ澤源鹽田ニベ據ニ
- 十四 呈出容量ヘ量申、大小ノ及十二石三斗五舛間二八申三尺八平頭ヘキヘモ金量内モ市錢四斗貰ナシ前半株面ニシテ
 重 量 二千二百斤十六百三
- 十三 鹹田一戸前又ハ一定反別(二町七反七畝十步)ヨリ得タル一ヶ年ノ製鹽總量

鹽田容積量、一塩貯量、二千十三石五斗

重量 三十五萬八千六百三斤

十四 居出シ場ノ構造、大小、及ヒ廣狹、縱二間二尺巾三尺ノ平面ノモノナリ釜屋内ヲ巾約四尺長サ一間半斜面ニシテ地
上ニ竹簀ヲ敷キ其一端ニ溝ヲ穿チ苦汁除去ノ方法ヲ構セリ但シ居出シ場ナルモノハ新濱鹽田ニハ無之

十五 煎熬ニ關スル操作及方法、當所管内ハ總ヘテ石釜ヲ使用シ其使用期間ニ通常三十日許トシ此期間ヲ過クレハ釜面ニ
甲羅ト稱スル附着物燒付キ火ノ通リ薄ク釜ノ煮上リ惡シク使用ニ適セサルモノトナルヲ以テ必ス之ヲ取毀チ改造セサルヘ
カラス又一タヒ製造ヲ終レハ其使用期間ハ晝夜焚キ續ケテ間断ナカラシムルヲ要ス若シ中間断アラシムルカ火力ニ著シ
キ強弱アラシムルコトアレハ忽チ釜ヲ破損スルノ恐アルヲ以テ釜ノ焚キ方ハ一二釜焚男ノ熟練ヲ待タサルヘカラサルモノ
ナト云フリ

差鹽ナルモノナキモかいさき鹽ヨリ生スル苦汁タケハ一釜置キニ之ヲ鹹水ト同時ニ煎熬スルコト、セリ

每四十三鍋十斗

十六 従來使用シタル釜及竈ノ變遷並ニ使用燃料ノ變遷

竈ニ於テハ從來著シキ變遷ナシ只タ松葉焚カ石炭焚キトナリシ結果トシテ竈口多少狹少トナリシノミ
釜ハ從來ハ主トシテ平圓形ノ天然石ヲ用ヒシモ今日ニ至テハ正方形ノ人造石ヲ用ユルニ至レリ

燃料ニ於テハ著シキ變遷ヲ來シタリ蓋シ過去十年前ハ何レモ松葉焚ナリシモ近年ハ何レモ石炭ヲ用ユルニ至レリ尤モ下吾

川ニ於テハ頃日松割木ニテ煎熬ヲ初メタリト雖モ這ハ一時的ノ現象ニシテ永續スヘキ性質ノモノニアラス

十七 煎熬ニ關スル其他ノ事項、該當記事ナシ

十八 一ヶ年間ノ平均煎熬日數、一百六十三日

十九 一ヶ年間ノ平均收鹽量

重 量 三十二萬三千三百二十一斤
容 量 千八百九十九石二斗

二十 一ヶ年間ノ採鹹及煎熬總費用 一定反別(一町七反七畝十步)上田一ヶ年間ノ採鹹及煎熬總費用九百五圓七十一錢五厘ナリ

二十一 従來平年ニ於ケル鹽田一定反別(一町七反七畝十步)ノ收支計算表

收 支 科 目	金 額	備 考
收 鹹 代 價	入 額	
鹽 汗 代 價	三、三三二、九三八	製鹹石數真鹽一、九六八 <small>石</small> 三七五、一石當代一圓六十八錢八厘餘
合 計	一一〇、三七五	二百石三斗七升五合一石ニ付キ十錢當リ
支 出	三、三四三、三一三	鹽百石當リ金六十八圓八十錢也
鹽田操作人夫賃	七一九、五七五	頭一人月給七圓、十一ヶ月分金七十七圓 <small>(十一ヶ月分トセシハ十二月廿日ヨリ月廿日迄休業自宅ニ歸ルニ依リ其日ヨリ二月分トス以下全シ)</small>
差濱子	一人月給六圓八十錢十一ヶ月分金七十四圓八十錢	水配一人月給六圓五十錢十一ヶ月分金七十一圓五十錢
水配	一人月給六圓五十錢十一ヶ月分金七十一圓五十錢	濱子一人ノ月給六圓二十錢十一ヶ月分金六十八圓二十錢
炊	一人月給三圓二十錢十一ヶ月分金三十五圓二十錢	炊一人月給三圓二十錢十一ヶ月分金三十五圓二十錢
寄子	二人一人日給十錢十一月分金六十六圓	寄子二人一人日給十錢十一月分金六十六圓
杓廻シ	一人日給金四錢十一ヶ月分金十三圓二十錢	杓廻シ一人日給金四錢十一ヶ月分金十三圓二十錢
臨時雇	一人日給三十錢日數百三十三日分金三十九圓九十錢	臨時雇一人日給三十錢日數百三十三日分金三十九圓九十錢
給米	一人一日玄米一升五合分 <small>(頭濱子水)</small> 十六石五斗代二百二十二圓七十	給米一人一日玄米一升五合分 <small>(頭濱子水)</small> 十六石五斗代二百二十二圓七十
五錢石代平均金	十三圓五十錢	五錢石代平均金十三圓五十錢

釜焚人夫賃	一八六、一九〇	七日 釜焚二人一人日給金四十三錢釜焚日數百九十二日
燃料料	六〇八、〇八八	延日數三百八十四日釜築造七度、延日數四十九日 總延日數計四百三十三日
鹽田修繕費	七二、九〇〇	さじ(三池炭ヲ云フ)十一萬五百六十斤、一萬斤ニ付二十三圓計金二百五十四圓二十八錢八厘
建物器具器械修繕費	七六、〇〇〇	さゑ(元山炭ヲ云フ)二十二萬千百二十五斤一萬斤ニ付十六圓計金三百五十三圓八十錢
公課	一一一、三一五	新砂(入替土)二十三艘一艘一圓五十錢計金三十四圓五十錢鹽田周圍惡水溝浚人夫賃金二十二圓四十錢ねば二艘一艘八圓計金十六圓 建物金十四圓
消耗品	一〇〇、〇〇〇	器具器械金六十二圓 村稅金五十四圓四十錢五厘
利子	五五〇、〇〇〇	縣稅金十七圓五十錢七厘 地租稅三十九圓四十錢二厘
慰勞金	二〇、〇〇〇	石油、薤、蠟燭、繩、俵、簍藁、木筆紙、墨、味噌醬油、薪、炭、漬物、石炭、麥藁、松木、釜石 固定資本 利子金五百圓 流通資本五百圓利子金五十圓
雜費	五七、八七五	喰鹽代五人分一石二斗五升代二圓十二錢五厘 さめ釜酒代七度分金二圓九十四錢 建釜酒代七度分金四圓四十一錢 初濱酒代七人分金一圓七十五錢
重量	一千八百六十	一千八百六十
金	三十二萬三千	三十二萬三千

初釜酒代七人分金二圓十錢

酒代

小屋固メ酒代

金五圓

要及ハニ本鹽田人煮鹽津品ム難モ小モリ

簍五個代

三十五錢

中モハニ

竹笠五個代

二十五錢

祭禮酒代七人分金一圓七十五錢

益素麵代十一人分金二圓二十錢

年末土居取除酒代金二圓五十錢

年末賞與金三十二圓五十錢

百石當リ金百二十七圓十錢七厘

計四千一百一五〇一、九四三

百石當リ金四十一圓九十六錢四厘

差引益八二五、九九五

正

二十二

其他採鹹、煎熬ノ方法、鹽田、釜、竈其他ニ關シテ進歩シタル點改良ヲ要スヘキ點及改良案
テハ別ニ進歩シタル點ヲ認メス只タ爬砂ノ方向ヲ光線投射ノ方向ニ一致セシメタルノミニシテ從來ノ方法ヲ以テ別ニ批難スル所ナシト認ム

將來施設スヘキ企畫トシテハ鹹度小ナルカ爲ニ採鹹ヲ延ハセシ際偶雨雪ノ害スル所トナリ折角ノ勞ヲ水泡ニ歸スルヲ防ケン爲メ鹹水濃縮法ヲ用ヰシメントスル一事アルノミ

煎熬ニ關シテハ一度鹹水ヲ濾過セシメントシタルモ鹹度ヲ減少スルノ虞アルニヨリ温釜内ニ於テ汚物ヲ掬ヒ取ラシメタル后釜ニ移サシメ煎熬ノ際又浮泡ヲ除去セシメ且ツ可及的堅取り(鹹水ノ熬シ付クヲ云フ)ヲナサシメサル様注意セリ

釜ハ從來ノ石釜ヲ用ユセメント釜ノ成績ハ余リ佳良ナラサル様ナレハ之ヲ實行シタルコトナシ石釜ノ石材ハ漸次丸形ノ青石ヲ用ヒシメントス鐵釜ハ現下一ヶ所据付ニ着手セルモノアリ漸次之ヲ用ヒントスル傾向アリ

竈ニ關シテハ別ニ改良ノ要ヲ見ナルモ燃料ノ燃燒ヲ完全ナラシムル爲メ煙道及ヒ煙突ノ施設ニ付キ大ニ意ヲ用ユヘキ事ト

信ス

第一下真鹽又ハ差鹽ノ區別及各別ノ數量
當所ニテハ悉ク真鹽ニシテ差鹽ナシ

二 鹽ノ理化學的性質ニテ御手濱鹽田產鹽ノ色澤ハ大畧左ノ如シ

採收鹽 四十二種

内 純白ナルモノ

殆ント純白ナルモノ

微黃色ヲ帶フルモノ

僅微ナル灰色ヲ帶フルモノ

微黃色ヲ帶フルモノ

五

其微黃色ヲ帶フルモノハ主トシテ貯鹽床底ニ殘留セシモノニシテ要スルニ本鹽田ノ產鹽ニハ幾分ノ灰色ヲ帶フルモノ、如シ
结晶ノ狀態 立方形ノ結晶ヲ有シ其或ル面ニハ階段狀ヲ呈セリ往々鹽化加里等ノ無色立方結晶ヲ混有スルヲ見ル
结晶ノ大小ヲ區分スレハ左ノ如シ

採收納鹽 四十二種

内 小ナルモノ

十六

半木賀興金三十二圓正十錢

稍小ナルモノ

十

半木賀興金三十二圓正十錢

中ナルモノ

十六

半木賀興金三十二圓正十錢

要スルニ本鹽田ノ產鹽結晶ハ概シテ小ナリトス

成分

收納鹽中十四種ニ付キ分析ヲ施シタルモノ、平均數左ノ如シ

小恩田ヘ四九
半恩田ヘ四九
金正圓

一、鹽化曹達

八七、四五

夾雜物

水 分

一〇、八四

以上ノ結果ヨリ本鹽田ノ產鹽ハ二等ニ位スルモノトス

三 食鹽ノ主要用途 本管内ニ於テハ工業用ニ消費スルモノナク明治三十八年六月以降本年二月末ニ至ル產鹽中其消費額

ヲ列記スレハ左ノ如シ

魚類鹽藏用

二、五七三 斤

食用、漬物用(幾分ノ魚類鹽)

八七三、六四〇

十四醬油釀造用鹽

二〇九、四八九

十五獸皮保存用鹽

六、四三五

十一撰種、鹽

二、九二三

十二計

一、〇九五、〇六〇

四 鹽(各等級)ノ容量ニ對スル重量

鹽一斗當リ重量ヲ等級毎ニ舉クレハ左ノ如シ

五 一等
六 二等
七 三等
八 四等

二貫九百二十匁

二等
三等
四等

三貫〇五匁

三等
四等

二貫九百四十匁

三等
四等

三貫四十匁

五等
六等

三貫百九十匁

五 苦汁ノ用途

苦汁利用ノ途ハ進歩セス撰種又ハ豆腐製造用等ニシテ夏季ノ候ニ於テ生産多額ノ時ハ殆ント廢物ニ屬セ

六 苦汁利用ノ方法ハ撰種ニ於テハ約二斗五升ヲ桶ニ容レ種ノ浮沈ヲ見テ種ノ良否ヲ撰擇ス豆腐製造ニ於テハ豆腐一箱ニ對シ約一升五合ヲ用ユ

七 苦汁ノ生産量 一定反別(一町七反七畝十步)ノ苦汁生産量二百三石七斗五升

八 苦汁ノ貯藏裝置及貯藏方法 約四石容ノ桶ヲ地中ニ埋メ以テ之ヲ貯藏スルモノナリ

九 苦汁一石ノ賣買價格 苦汁一石ノ賣買價格ハ平均二十錢ナリ

十 苦汁ノ運搬方法及其販路 四斗樽ニ收容シ荷車ヲ以テ運搬ス其販路ハ伊豫、温泉ノ二郡トス

十一 苦汁ヨリ生スル副產物製造裝置及製造方法

十二 副產物ノ種類、名稱及用途

該當記事ナシ

十三 副產物ノ價格及販路

十四 鼠鹽、かいさき鹽、泥鹽、居出鹽、釜立鹽等ノ粗惡鹽產出額及其使用方法販路及價格
法

產出額 一萬九千八百五十斤

使用方法 販路 使用方法
鹽藏 鹽藏

三 金鹽販路 本管内ニ於テ伊豫溫泉ノ二郡
馬上、馬價、格 一斗ニ付十二錢

第五章 鹽ノ包裝及秤量

一 從來ニ於ケル一包裝鹽ノ數量

容 量 二斗五升
重 量 約三十九斤

- 二 包裝ノ形狀、種類 吠俵ニシテ縦横トモ二尺
- 三 包裝ノ編製方法及其原料 築ヲ以テ蓆ノ如ク編ミ両端ハ繩ヲ以テ縫合ス
- 四 各種包裝ノ價格 吠俵一個ニ付平均金三錢
- 五 包裝ハ一重ナルカ又ハ二重ナルカ又ハ其形狀、大小等又販路先キニ依リ差異ノ有無 總テ一重ニシテ販賣先ニ依リ異動ナシ

六 包裝ニ附記スル商標其他記號ノ種類形狀、大小 商標ヲ附記スルモノ一モナク從來ハ多ク撒鹽ノ儘販賣ヲナシ若シ包裝ノ場合ニ於テハ記號ヲ用ユルモノアリ其記號ハ二寸方形ノ烙印ナリ

七 秤量器ノ種類形狀、大小及材料 従來ハ桶ヲ以テ石數ヲ計算シ其桶ハ杉ヲ以テ造リ竹輪ヲ施シタルモノニシテ容量一斗二升五合ナリ

第六章 貯藏方法

一 倉庫ノ構造、大小及壁床ノ構造 木造瓦葺平屋建十五坪床ハ土間ヲ一尺五寸掘リ其處ニ海砂ヲ收容シ其上ニ蓆ヲ敷ケリ壁ハ四分板ヲ以テ張ル倉庫内鹽ヲ收容スル所ヲ數個ニ仕切ル其形狀方法ハ恰モ箱ノ如クニシテせりあげ又萬斛ノ方法ニ依リ縱横共約三尺ヲ隔テ溝ヲ穿テル柱ヲ建テ溝ノ上方ヨリ自由ニ板ヲ插入スルノ裝置ニシテ收容スル鹽ノ多少ニヨリ板ノ枚數ヲ増減シ伸縮自在ナラシム

二 賽藏方法及貯鹽期間ニ於ケル俵ノ程度及狀態

(該當記事ナシ)

四 一ヶ年間ニ於ケル眞鹽差鹽ノ各貯藏歩減及各滴出苦汁量 常管内ハ何レモ最モ販路ノ良好ナルヲ以テ一ヶ年間ニ永ク貯藏スルモノナシ從テ其一ヶ年間ノ歩減ヲ掲クルヲ得ス

五 苦汁ノ採收方法及貯藏裝置 苦汁採收ハ煎熬シタル鹽ヲ一旦かいさきニ於テ約五十分間放置シ尙之ヲ笊ニ移シ六時間乃至十時間垂ラシテ苦汁ヲ採取ス鹽ノ貯藏裝置ハ第六ノ一項ニ掲記スル如ク床ハ土間一尺五寸ヲ堀リ其處ニ海砂ヲ收容シ尙其上ニ蓆ヲ敷キ苦汁ヲ採取スル方法ヲモ取レリ

六 古積鹽ノ製造方法及製造期間ニ於ケル鹽歩減ノ割合

該當記事ナシ

七 古積鹽製造用家屋ノ大小、構造及床四壁ノ構造

第七章 鹽ノ販賣

一 従來ニ於ケル鹽販賣ノ方法 専賣法實施前ニ於テハ管内製鹽業者ハ主トシテ擔賣人及ヒ販賣者又ハ消費者ニ直接賣渡ヲナスノミナルヲ以テ賣買行爲ハ是等ノ者ノ間ニ於テ行ハレリ然リ而シテ其ノ際ニ於ケル取引ノ方法ハ製鹽貯藏場ニ於テ現金引換ニ鹽ノ引渡ヲナスノ習慣ナリ唯興居島村製鹽業者ノミハ仲買人(管内)ヨリノ注文ニ應シ出荷シ其支拂計算ハ三ヶ月毎ニ之ヲ爲ス習慣ナリ然リト雖モ此賣渡方法ハ絶對的一定不變ノモノニアラスシテ多量ノ需用アル其ノ醬油釀造漬物季節等ノ時期以外ニシテ製鹽停滯シ到底自己ノ手ニ於テハ充分ナル賣レ行ノ見込無キ時期ニ於テハ製鹽業ニ代リ金仕拂ノ時期ハ時ニ仲買ナルモノヲ利用シテ彼等ノ手ヲ經テ賣渡ヲ爲スナリ此場合ニ於ケル問屋又ハ仲買カ製鹽業ニ代リ金仕拂ノ時期ハ時ニ或ハ現金引渡時期ノ前ニ於テシ時ニ或ハ其一二ヶ月ノ後ニ於テシ即チ仕拂時期ノ一定セルモノナシ翻テ問屋又ハ仲買ナルモノカ地方販賣者ニ賣渡ヲ爲スモノヲ見ルニ偶々例外ノモノアリト雖モ代金仕拂時期ハ概シテ一定シ毎月廿八日(陰曆)ヲ以テ之ニ充テリ販賣者カ消費者ニ賣渡ヲナスニハ賣渡先ノ舊知ニシテ仕拂上信用ノアルモノヲ除クノ外ハ總テ現金賣渡ヲ

以テセリ

二 鹽ヲ賣買スル船頭ノ習慣及船頭カ鹽ヲ賣買運搬スル方法 船員ノ給料船頭ト鹽商トノ關係アリ管内輸入鹽ハ波止濱鹽ヲ主トシ之ニ繼ハ少量ノ木浦及ヒ津倉鹽ノミナルヲ以テ從テ管内鹽賣買ヲ爲スノ船頭ハ該鹽產地ノ者ニ止マレリ其ノ賣買ノ方法ニ至リテハ專賣前ニ於テハ製鹽業者ヨリ石數（何斗何舛俵）ヲ以テ買入レ等シク石數ニテ賣渡ヲナシ專賣後ニ於テ政府又ハ販賣業者ヨリ斤數ヲ以テ買入レ等シク斤數ヲ以テ賣渡ヲ爲スコトヲ異ニセルノミニシテ其他ニ至リテハ更ニ異リタルモノナシ即チ專賣前後共ニ斯クノ如クシテ船頭カ其買入レタル鹽ハ其一定數量即チ百四十石（普通石數ヲ以テス）ヲ船一艘ニ積載シ最初管内溫泉郡北條ニ入港シ該港ニ於ケル問屋ニ賣渡ヲ爲ス此場合ニ於テ賣渡後尙殘量ノ存スルアレハ更ニ同郡堀江更ニ之ヨリ三津港ヘト積載量ノ全部賣渡ヲ了スル迄順次寄港ノ上漸次賣渡シヲ爲シ尙ホ殘量アラハ最後ニ伊豫郡郡中港ニ至ル此ノ方法ハ船頭カ是等賣渡先ニ於ケル需用ノ時期ヲ察シテ鹽ヲ積載回航スルノ場合ニシテ又此他ニ臨時其主タル需用地ナル北條郡中ノ各町又ハ上灘下灘村ニ於ケル問屋ヨリ各其地ニ於ケル需用ノ數量ヲ見積リ其所要數量ノ運搬ヲ之ニ向シテ請求スルノ場合ニ當リテ船頭ハ之レカ注文ニ應シ臨時其供給トシテ是等所要數量ヲ取纏メ積載渡航スルコトアリ而シテ如上孰レノ場合ニ於テモ問屋ヨリ船頭ニ對スル代金仕拂方法ハ同一ニシテ其買入代金仕拂完了ニ至ル迄ハ概子六ヶ月ヲ要シ概シテ現品引取ノ際ニ當リテハ内金若干ヲ支拂フノ習慣ナリ試ミニ專賣法實施後ニ於テ如上各港問屋カ直接輸入先鹽商ニ依ラスシテ依然船頭ニヨリ仕入ヲ爲ス所以ノモノヲ考查スルニ主トシテ舊來ノ習慣ニ依ルト尙ホ其孰レヨリスルモ價格ニ差異ナキノミナラス代金仕拂上ニ於テハ如上事實ニヨリ前者ニ依ルヨリモ後者ヲ採ルヲ以テ優ニ便ナルモノアル等ニ起因セリ

三 従來ニ於ケル鹽ノ販路地 管内食鹽ノ生産額ハ一ヶ年凡ソ三百六十萬斤ニ過キス故ニ他地方ニ之ヲ移出スルコト無ク却テ地方需用ヲ移入ニ仰クノ狀況ナリトス是ヲ以テ賣買取引ノ如キモ極メテ活潑ナラス今各郡別製鹽ノ販路地ヲ述ンニ温

泉郡製鹽中新濱鹽及古三津鹽ハ專ラ各所在村及全附近村落ノ擔賣商人及自家用料醬油製造者ノ購買ニ供セラレ興居島村鹽ハ仲買人ノ手ヲ經テ温泉郡内松山市三津濱及伊豫郡郡中町ニ仕向ケラレ伊豫郡製鹽ノ仕向先ヲ視ルニ郡中鹽ハ郡中町及松前、岡田、郡中、南伊豫、北伊豫ノ各近村ニ北山崎鹽ハ郡中及南山崎、北山崎、郡中、中山、出淵ノ各村ニ分配セラル翻テ管内移入鹽ノ移入及仕向地ヲ述ヘンニ主トシテ波止濱鹽及ヒ此他ニ少分ノ木浦、津倉鹽ニシテ其管内温泉郡北條港ニ入ルモノハ全郡北條町及難波、立岩、朝海、正岡各近村ニ其全郡三津港ニ入ルモノハ全町及松山市(松山市ヨリ更ニ川上及砥部村ノ両方面ニ轉出セラル)ニ仕向ラレ其他伊豫郡、郡中港ニ入ルモノハ全町中山地方ニ仕向ケラル而シテ全郡上灘及下灘村ニ於テハ直接波止濱ヨリ輸入シ以テ其地方ノ需用ニ供セラル、ノ状態ナリ

四 鹽商カ鹽業者ニ資金ヲ融通スルノ有無及其方法契約并ニ償却ノ方法 管内製鹽業者ノ鹽賣渡方法ハ本項第一目鹽販賣ノ部ニ於テ詳述シタルカ如クナルヲ以テ鹽商カ鹽業者ニ資金ヲ融通スル等ノ事實更ニ無シ唯興居島村製鹽業者一二ノミハ殆ント其製鹽數量ノ全部ヲ松山市大販賣者藤村良太郎ニ卸賣ヲ爲スモノナルカ是等両製鹽家ハ共ニ薄資ナルヲ以テ資本運轉上ヨリ時々將來製造鹽ノ豫想高ニ對スル賣渡金額ノ融通ヲ仰キ其后ノ製造鹽ヲ引渡シ以テ之ヲ相殺償却スルノ方法ヲ採レリ而シテ契約トシテハ別ニ書面ヲ以テスルニハアラス從來ノ慣習上ノ行爲ヲ繰返セルノ所爲ナリ然レトモ如上融通金額ハ鹽賣渡代金ト數月間ニハ相殺スルノ筈ナルモ如上薄資ナル製鹽業者ハ資金ノ流通ヲ仰クコト頻繁ニシテ常時鹽賣渡代金ニ超越セルヲ以テ鹽商ノ融通セル金額ノ相殺ヲ見ルハ數年ノ後ニ於テ之ヲ見ルノ事實ナリトス

五 從本ニ於ケル鹽ノ濱相場小賣價格

(一舛當) (三十七年以前三ヶ年間)

當管内ニ於テハ取引上使用スル計量器ハ新濱古三津及興居島村各濱ハ共ニ一斗二舛五合入丸桶ヲ用ヰ一桶トシ森濱及新川濱ハ九舛入丸桶ヲ用ヰ二個分ヲ一桶トシ俱ニ此容量ヲ以テ標準トシ賣買價格ヲ定ムルノ商習慣ニ付一石當相場ナルモノハ相場ノ單位タラス從テ之レカ相場ナルモノ無シ依テ今各濱ニ於ケル一桶分ノ相場ヲ左ニ掲クヘシ

年	別	温泉郡古三 津村御手濱	伊豫北山崎 村森濱	伊豫郡郡中 村新川濱	温泉郡興居島 村御先洗濱	温泉郡興居 島村中臺濱	温泉郡興居 島村馬磯濱	温泉郡新濱 村新濱
三十一年	、二五八	、二八〇	、二七六	、一八八	、一八一	、一八〇	、二二八	、二二〇
三十一年	、二二二	、二六三	、二六〇	、一六八	、一八三	、一六〇	、二二〇	、二二〇
三十一年	、二〇五	、二四七	、二四四	、一六四	、一八七	、一五八	、一九〇	、一九〇
三十一年								

備考

一 興居島村各濱ニ於ケル相場ノ他各濱ニ比シ低廉ナルハ他各濱ハ小賣ヲ主トスルモ興居島村各濱ニ於テハ卸賣ヲ主トナスニ由ル

二 三十五年相場ハ平均各濱ヲ通シテ三十六年及三十七ノ兩年ニ比シテ價格高騰ナルハ同年中ハ雨天多カリシ爲メ製鹽量平年ニ比シ大ニ尠少ナリシニ依ル

六 鹽價ノ定メ方 土地建物及其他製造、販賣ニ要スル一切ノ器具器械及其修繕料、小作料、金利、燃料購入代、勞働者賃金等ノ固定及連轉資本トシテ要シタルモノヲ基礎トシ尙ホ之レニ費シタル勞力ヲ加ヘタルモノヲ以テ一般ニ鹽價ヲ定ムルモノトス然リ而シテ物價ハ物ノ需給ニ密接ナル關係ヲ有シ之レニ因シテ騰落スルモノナルヲ以テ鹽モ亦不作其他ノ源因ヨリシテ供給ノ需用ヲ充タスニ定ラサル場合ニ於テハ騰貴シ之レニ反シテ供給多ク需用ノ不足スル場合ニ於テハ低落スルモノトス依テ如上鹽價ノ定メ方ノ如キモ需給關係ノ順調ナル場合ニ於テ然ルモノニシテ其變調ノ場合ニ於テハ或ハ生産費ニモ及ハサルコトアリ或ハ此以外ニ多クノ利潤ヲ占ムルコトアレハ畢竟需給關係ノ依テ以テ然ラシムルトコロトス一例ヲ示サハ三十五年不作ニ於ケル鹽價ノ騰貴シタル又專賣法實施ノ間際ニ於テ實施後鹽價ノ暴騰ヲ豫想シ一般ニ競テ見越貰ヲ爲セシ爲メ鹽價ハ非常ニ昂騰シ製造者及販賣者共ニ多クノ利益ヲ收得シタル如キ是ナリ

七 販賣ノ季節 鹽ノ販賣額ハ季節ニヨリテ大差アリ即チ左表ニ示ス如ク販賣額ハ大部分ハ醬油仕込及漬物ニ用ヰラル尙ホ細別スレハ一ヶ年ヲ通シテ最モ多量ノ賣レ行キアルハ醬油仕込時期ニシテ殆ント全一ヶ年販賣額ノ一半ヲ占メ之ニ亞ク

ヲ漬物ノ季節トス此ニ季節ヲ除クノ外賣レ行キハ一般消費ニ充ツルモノニシテ微々タルモノタリ然リ而シテ本表ノ示ス賣レ行キ方ハ鹽價均調ナル普通ノ場合ノ賣レ行キヲ示スモノニシテ價格ノ變動著シキ場合ニ於テハ經濟上ノ關係ヨリ或ハ見越買ヒヲ爲シ或ハ買入見合ハセヲ爲ス等ノ爲メ必シモ然ル能ハサルモノトス

用 途	期 間	販 賣 額	步 合	用 途	別
				鹽 油 任 込 (自家用醬油ヲ含ム)	其 他
漬	自舊 至舊 十一 月 中旬	、四五	、四五		
其 他	用 途	物	物		
計	全 年	一 ヶ 年	、二〇		
全 年	一 ヶ 年	一 〇〇	一 〇〇		

八 鹽俵抜キ検査ノ方法 専賣法施行前ニ於テハ賣買ノ際買受人ニ於テ便宜適宜ノ方法ヲ以テ調査ス而シテ一般當業者ノ買入方ハ夫々當時取引ヲナシ信用ヲ置ケル製鹽者又ハ問屋仲買ヨリ買入レヲナスノ習慣ニ付買受品ヲ一々精査セシ事ナシト雖トモ專賣法施行后ノ今日ニ於テ收納ニ際シテハ嚴格ニ法規ニ從ヒ百俵ニ付五法ヲ摘出シ秤量鑑定スルコトアリ又信用アル鹽業者ニ就テハ一口ニ付二俵ヲ摘出シ鑑定秤量スルコトアリテ一定セスト雖モ未タ嘗テ鑑定秤量ヲ爲サヌシテ收納セシ事ナシ而シテ摘出スル俵呑ハ抽籤ノ方法ニ依テ百本又ハ五十本ノ籤ヲ箱中ニ入レ置キ收納ノ際納付者ノ目前ニテ籤ヲ引キ出シ之ニ該當セシ俵呑ヲ適宜摘出スル事トナシ居レリ又鑑定ハ當初ニ在テハ俵呑ヲ縱横ヨリ鹽差ヲ入レ之ヲ検セシモ當所ニ於テハ摘出セシモノヲ一旦撒鹽トナシ之ヲ検査シ居レリ

要スルニ收納ハ法令ノ範圍内ニ於テ之ヲ執行セリ賣渡ニ付ラハ買受人ハ收納當時ノ等級及斤數ニテ満足セル者耳ナルヲ以テ拔キ検査ヲ爲セシ事ナシ其商人ヨリ商人ニ賣渡スモノニアツテハ專賣法施行前后異ナル所ナシ

九 鹽ノ受渡ニ際シ重量、容量ノ減少ニ對スル處置 鹽ノ受渡ニ際シ重量容量ノ歩減ヲ察シテ容量増シ重量増シ等ヲ爲スノ習慣無シ(此習慣ハ延テ專賣實施後ニモ及ヒ依然異ナルコトナシ)即チ一呑二斗五升入トシテ製鹽業者ヨリ讓渡ヲ受ケタ

ル販賣業者又ハ一般消費者ニ賣渡ヲ爲スニ當リテモ實際ハ幾分ノ重量、容量減リアルモ賣渡及買受人雙方共ニ步減ヲ諭セス等シク二斗五舛入トシテ賣買ヲ爲セリ唯此ノ場合ニ於テ甚シキ步減アルトキハ直段ニ於テ幾分遞減ヲ行ヒ授受ヲ了スルモノトス

一般何斗何舛俵ト稱ヘ取引サル、俵ノ實量ヲ調查スルニ普通約其九掛ノ量ヲ收容セリ即チ例ヲ示サハ興居島村各濱ニ使用セシ稱ヘ二斗五舛俵ハ實量二斗三舛又新川及森濱ニ使用セシ稱ヘ一斗八舛俵ハ實量一斗六舛ナル類ナリトス又小賣一舛ノ實量ハ各販賣業者計量ノ巧拙ニヨリ一定セスト雖モ約八合ヨリ九合ノ間ニアリトス

十 碱水賣買ノ有無及其方法價格ノ定メ方

(該當記事ナシ)

十一 製鹽ノ原料タル碱水ニ對スル見越買ノ有無方法

第八章 鹽運搬方法及運搬費

一 從來ニ於ケル鹽ノ運搬方法及其各種積載數量 管内鹽生產量ハ一般ノ需用ヲ充タスニ足ラス殆ント同量ノ鹽ヲ波止濱等ヨリ仰キ以テ漸ク其不足ヲ補ナヘリ從ツテ製鹽ハ他府縣ハ勿論他郡ヘモ之ヲ移出スルコト無キヲ以テ船ニ據テ運送スルカ如キハ殆ントナシ唯管内或一地方ヨリ他ノ或一地方ニ至ル小距離間ノ運搬ナルヲ以テ主トシテ荷車ヲ以テシ山間僻阪ノ地ニシテ荷車ノ通セザル所ハ荷馬ニ據レリ而シテ其各種積載ノ數量ハ運搬通路ノ難易ニヨリ多少ノ増減アルモ普通其荷車ニヨルモノハ一臺ニ付四十斤入十二俵ヲ其馬ニヨルモノハ一頭ニ付全上六俵ヲ積載スルモノトス

二 各運搬方法ニ依レル各運搬先迄ノ鹽一定量又一定容量ノ運賃及出荷地ニ於ケル手數料、諸掛費、保險料及着荷地ニ於ケル諸掛費用等本事項ハ左表ノ如シ

運搬方法	差立地名	到達地名	事故	鹽一定量	一定容量	運搬費	出荷地ニ於ケル諸掛費用	備考
車	出張所	三津濱町		四十斤入	二十呎	一呎七厘	全	

備考

三津附近ヨリ北條方面ニ至ル部分掲上セサルハ同地方一帶ハ從來ヨリ今日ニ至ル迄モ直接波止濱ヨリ移入セルヲ以テ三津附近ヨリ運搬ノ事實ナキニヨリ調査スルヲ得サルニ依ル
二、鹽ト他貨物トノ運賃ノ差異ハ重量十貫目ニ於テ鹽六錢他貨物八錢ノ割合ニ付鹽ハ十貫當他貨物ニ比シ二錢ノ減差アルヲ以テ一般労働者ハ鹽ノ運搬ヲ嫌ヘリ故ニ至急止ムヲ得サル場合ヲ除クノ外ハ買受人ニ於テ空キ車等ヲ利用シテ引取ルノ習慣ナリ

第九章 小作人ト地主トノ關係

一小作料ヲ定ムルノ外他ニ何等ノ條件ヲ締結スルコトナキモ從來ノ習慣トシテ釜屋及鹽田ニ係ル大修繕費ハ地主ニ於テ擔當シ小作人ハ小修繕費ヲ負擔セリ其他何等ノ關係ヲ有セス

第十章 組合

本組合ノ事務は鹽田ヘ田ニ亘る試賣、輸出入、試驗、輸送等の事務を司る。本組合は、本組合の事務を司る。

第十一章 試賣及試驗

鹽田へ田ニ亘る試賣、輸出、輸入等の事務を司る。

第十二章 輸出入及試賣

鹽田へ田ニ亘る試賣、輸出、輸入等の事務を司る。

第十三章 鹽田以外ノ製鹽裝置及方法

鹽田以外ノ製鹽裝置及方法を記す。

第十四章 燒鹽

燒鹽の方法を記す。

第十五章 再製鹽

再製鹽の方法を記す。

右六章該當記事ナシ

第十六章 鹽田ノ地價等

鹽田ノ地價等を記す。

一 鹽田ノ地價時價、小作料、及鹽田ト他ノ土地トノ比較

(二七) 阪出鹽務局三津濱出張所ノ部

第九章 小作人ト地主トノ關係
第十二章 輸出入及試賣
第十五章 再製鹽
第十六章 鹽田ノ地價等

村名	種別	地	反	步	當	小作料
新濱村			二八、三一〇			一五〇、〇〇〇
古津村			三六、八二〇			一三、〇〇〇
北山村			二五、六八〇			九〇、〇〇〇
郡中村			四〇、〇〇〇			一七、六二〇
興居村			三四、六〇〇			一一、〇〇〇
島十村	鹽田	鹽田	三〇、〇〇〇			一七、五〇〇
島十村	鹽田	鹽田	三六、七〇〇			一七、五〇〇
島十村	鹽田	鹽田	三〇、〇〇〇			一七、五〇〇
島十村	鹽田	鹽田	二二、三九〇			一七、五〇〇
島十村	鹽田	鹽田	四〇、〇〇〇			一七、五〇〇
島十村	鹽田	鹽田	四三、六四〇			一七、五〇〇
島十村	鹽田	鹽田	二二、三〇〇			一七、五〇〇
島十村	鹽田	鹽田	二三〇、〇〇〇			一七、五〇〇
島十村	鹽田	鹽田	一九、一六〇			一七、五〇〇
島十村	鹽田	鹽田	一三、七三四			一七、五〇〇

備考 本表中鹽田ノ部ニ於テ小作料ヲ掲上セサルハ自作ニ係リ小作料ヲ調査スル能ハサルニ依ル

以上鹽田ヲ各其所在地ノ田ト比較調査スルニ何レモ鹽田ハ田ニ比シ地價ニ於テ殆ント半額ノ低價ナルニモ拘ラス時價ハ却テ二倍ノ高價ナル反対ノ現象ヲ呈セルヲ見ルヘク即チ地價、時價、小作料ノ總テニ於テ鹽田ハ田ニ優レルヲ知ルニ至ル

讀メ小作人ヘ小作料費を負担ナリ其當回収ヘ關税ミ合ガズ

一 小作人ヘ小作料費を負担ナリ其當回収ヘ關税ミ合ガズ

第三章 小作人・地主・關稅